

平成29年度 業務実績報告書

及び中期目標期間(平成24年度～平成29年度)業務実績報告書

平成30年6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。</p> <p>特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 <p>1 教育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 <p>2 研究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p> <p>3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p> <p>4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p> <p>5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p> <p>6 評価及び情報公開:評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・情報公開
法人の業務	<p>1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。</p> <p>2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。</p> <p>3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。</p> <p>4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。</p> <p>5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。</p> <p>6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。</p>

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の数数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	松 本 次 好	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 文部省入省 平成18年 4月 九州大学総務部長 平成20年 4月 島根大学理事・副学長・事務局長 平成24年 2月 福岡教育大学理事・副学長 平成25年 2月 環太平洋大学事務局長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	吉 村 静 男	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 福岡県採用 平成15年 4月 漁政課長 平成23年 4月 人事委員会次長 平成25年 4月 水資源対策長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	古 野 金 廣	平成28年6月1日 ～平成30年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント(株)入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス(株)代表取締役社長 平成19年 7月 (株)麻生代表取締役専務取締役 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント(株)代表取締役 社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事
理事(学外)	芳 賀 晟 壽	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長

理事(学内)	石崎 龍二	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 5年 3月 九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成 6年 4月 福岡県立大学助手 平成12年 4月 福岡県立大学助教授 平成25年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年 4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事(学内)	松浦 賢長	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事
監事	古本 栄一	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 6年 4月 弁護士開業 平成21年 2月 古本法律事務所開設 平成24年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	梅田 久和	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和60年 4月 麻生セメント入社 平成 7年10月 センチュリー監査法人入所 平成17年 6月 新日本監査法人マネージャー 平成17年 7月 梅田公認会計事務所開設 平成28年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

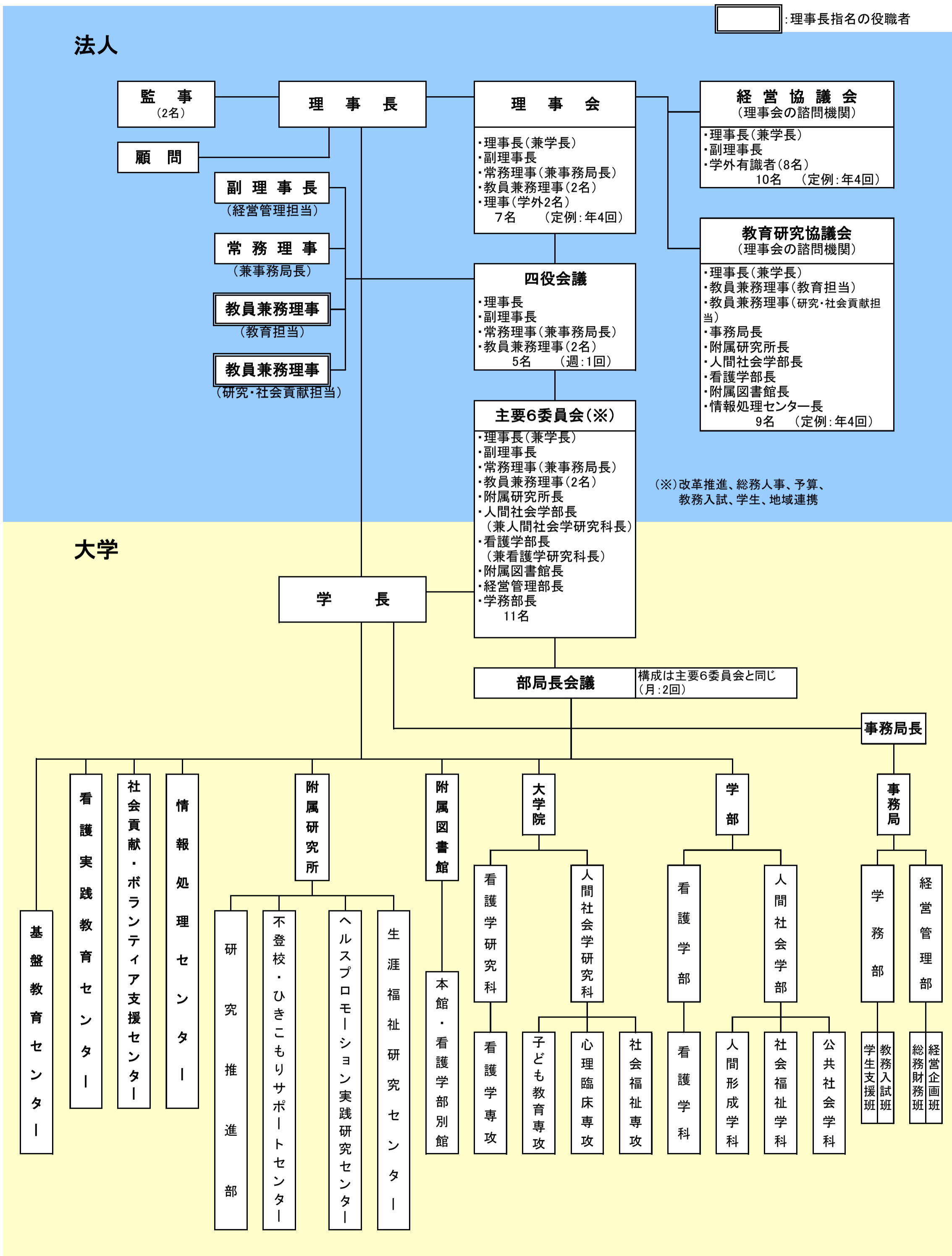
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
教員数	常勤(正規)	110人	110人	102人	104人	108人	113人	
	内訳	教授	26人	28人	23人	23人	21人	25人
		准教授	34人	32人	31人	32人	34人	31人
		講師	20人	20人	22人	23人	24人	25人
		助教	17人	19人	21人	21人	21人	20人
		助手	13人	11人	5人	5人	8人	12人
	非常勤講師	127人	130人	112人	146人	134人	138人	
合計	237人	240人	214人	250人	242人	251人		

教員数増減の主な理由

平成29年度に常勤(正規)教員が増加しているのは、附属研究所におけるプロジェクト研究に従事する特任教員を新たに雇用したこと等による。

(3)職員										
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度			
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人	1人			
	正規職員	県派遣	18人	15人	13人	13人	14人	14人		
		プロパー	2人	5人	7人	7人	7人	7人		
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
	計	20人	20人	20人	20人	21人	21人			
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	10人	11人	11人	13人	15人	13人				
合計	31人	32人	32人	34人	37人	35人				
職員数増減の主な理由										
(4)法人の組織構成										
別紙のとおり										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人間社会学	計	630名	716名	114%	116	115	113	112	112	114
内訳	人間社会学部	600名	688名	115%	117	116	115	112	114	115
	公共社会学科	200名	226名	113%	118	119	116	113	111	113
	社会福祉学科	200名	234名	117%	117	116	118	113	116	117
	人間形成学科	200名	228名	114%	116	115	110	112	114	114
	大学院 人間社会学研究科	30名	28名	93%	90	90	90	97	83	93
看護学部	計	384名	403名	105%	100	102	100	101	98	105
内訳	看護学部	360名	380名	106%	99	102	101	101	98	106
	看護学科	360名	380名	106%	99	102	101	101	98	106
	大学院 看護学研究科	24名	23名	96%	108	104	92	100	100	96
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田洋三郎	平成28年4月1日～平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	松本次好	平成28年4月1日～平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋吉一明	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	川上鉄夫	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北原守	平成28年4月1日～平成30年3月31日	北九州市手をつなぐ育成会(親の会) 顧問
	佐藤博英	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	齋藤明	平成28年4月1日～平成30年3月31日	前 独立行政法人大学入試センター 監事
	谷口金蔵	平成29年5月1日～平成30年3月31日	田川商工会議所 会頭
	二場公人	平成28年4月1日～平成30年3月31日	田川市長
	吉村恭幸	平成28年4月1日～平成30年3月31日	(一社)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田洋三郎	平成28年4月1日～平成30年3月31日	理事長
学部長	赤司千波	平成28年4月1日～平成30年3月31日	看護学部長兼看護学学術研究科長
	田中哲也	平成28年4月1日～平成30年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
学内組織の長	石崎龍二	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教員兼務理事
	永嶋由理子	平成28年4月1日～平成30年3月31日	附属研究所長
	郝曉卿	平成28年4月1日～平成30年3月31日	情報処理センター長
	福田恭介	平成28年4月1日～平成30年3月31日	附属図書館長
	松浦賢長	平成28年4月1日～平成30年3月31日	教員兼務理事
	吉村静男	平成28年4月1日～平成30年3月31日	事務局長



全体評価	
中期目標項目	法人自己評価
I.全体	<p>【平成29年度】</p> <p>公立大学法人である本学は、福祉系の公立大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進し、PDCAサイクルによる改善に取り組みました。特に、学長主導のもと、これからの社会(少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会)を担う学生の力を高めるための教育改革に取り組みました。前年度から導入した全学横断型教育プログラムとして「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」「キャリア形成支援プログラム」「保健福祉情報教育プログラム」の4プログラムを展開しました。特に「キャリア形成支援プログラム」「保健福祉情報教育プログラム」の2プログラムではコースを越えた卒論の履修が可能となりました。全学横断型教育プログラムでは、教員が学部・学科・コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の学部教育の大きな特徴の一つとなりました。</p> <p>入口管理は、質の高い学生確保のため、入試広報活動についてスマートフォン対応をはじめとするホームページの見直し・改善を積極的に行いました。オープンキャンパス(2回)、入試説明会、高校訪問、高校教員情報交換会、高校生向けオータムスクール等を全学的に教職員協働で推進しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は目標の約170%に達しました。入学者選抜試験における学部の実質倍率は2.7倍となりました。</p> <p>出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、まず国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は100%、保健師100%、助産師100%、社会福祉士66.7%、精神保健福祉士88.2%と全国平均を上回る合格率を達成することができました。就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員を対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有を図った結果、就職率は97.9%と高い水準を達成しました。</p> <p>教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部連携による科目を開講しました。eラーニングシステムの利用促進を図り、122コースを開設し、学生の利用率は91.0%となりました。学生による授業評価アンケートの結果を受け、教員がその対応を開示する仕組み「授業対応プラン制度」を導入実施しました。FD研修会等への教員参加率は98.2%となり、前年度を大きく上回りました。学生の成績評価では引き続きGPA制度を活用し、GPAの低い学生全員を面接指導する一方、GPA高得点の学生を学位記・卒業証書授与式で表彰しました。</p> <p>研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は4,109万円、平成29年度科学研究費応募率は95.1%となり、目標を上回る水準を維持しました査読付き論文数は111件、招待講演等の学会発表数は15件となっています。研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地(知)の拠点作りを目指す大学としての取り組み(COC)、及び交流協定を締結している韓国・中国の大学との共同研究を重点課題としました。科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究助成制度や大学院生の研究支援制度の実施等により、研究を積極的に推進してきました。</p> <p>地域貢献における各種活動は附属研究所・各センターを中心に活発に行うことができました。</p> <p>国際交流は、南京師範大学、大邱韓医大、三育大、威徳大学、吉林大學珠海学院の協定締結校と学生交流・教育交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は30名となりました。短期研修制度(学生派遣)を威徳大学において実施しました。短期研修(大邱韓医大)の受入れ、グローバル・アクティブラーニング研修(大邱韓医大看護学部)の受入れも実施することができました。</p> <p>総合的には、法人化後の第2期中期計画の最終6年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、学長のリーダーシップのもと、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の戦略的特徴を形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できました。その結果、特に教育分野において大きな躍進を遂げ、本学の使命に見合う成果を得たと考えます。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進しました。平成25年度には大学のミッションを内外に打ち立てる大学憲章を制定しました。また同年には教員表彰制度を導入し、外部評価重視の姿勢を打ち出しました。平成26年度にはガバナンス改革として、全部会を主要6委員会の下に位置づけ、意志決定のプロセスを明確にし、委員会・部会を活性化しました。平成27年度には学長主導のもと、これからの社会(少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会)を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。平成27年度から「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」そして「キャリア形成支援プログラム」から構成される全学横断型教育プログラムが導入され、その後「保健福祉情報教育プログラム」が追加されました。本プログラムは、教員が学部学科コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の大きな特徴の一つとなりました。「保健福祉情報教育プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」では卒論に至る道筋が整備されています。</p> <p>入口管理は、質の高い学生確保のために、スマートフォン対応をはじめとしたホームページ改革を中心に入試広報活動を積極的に行いました。オープンキャンパス、入試説明会、高校訪問等を全学的に教職員協働で推進しました。平成26年度から高校教員との情報交換会を開催し、平成27年度から高校生を対象としたセミナーを開始しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は平成29年度には目標の約170%に達しました。入学者選抜試験における学部実質倍率は第2期平均で3.1倍となり、辞退率については平成29年度に18.5%という低率を達成しました。</p> <p>出口管理は、学生委員会の下に位置づけられた進路・生活支援部会を中心に国家試験対策に取り組み、平成29年度には看護師合格率100%(既卒者含む)、保健師100%、助産師100%を達成しました。社会福祉士は第2期平均で70.4%、精神保健福祉士93.3%と高い合格率を達成することができました。就職対策は、キャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有を図り、その結果、平成29年度の就職率は97.9%と高い水準を達成しました。</p> <p>教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部の連携授業である「専門職連携入門」を開講しました。また、eラーニングシステムの利用促進を図り、120を超えるコースを開設(平成29年度)し、学生の利用率は平成29年度には90%を超えました。学生による授業評価アンケートによる授業改善については、「授業評価対応プラン」の枠組みを作りました。さらに学部では授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を可能にする仕組みを作りました。FD研修会等への教員参加率は平成29年度には学部98.2%、大学院95.5%となりました。学生の成績評価ではGPA制度を活用し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰する一方、GPAの低い学生全員を面接指導しました。</p> <p>研究では、平成28年度に附属研究所の改組を行い、研究部門の強化を図りました。全学的に科研費申請支援のための説明会を毎年度行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、目標を上回る水準を維持しました。</p> <p>地域貢献では、地域課題解決のための取組を、附属研究所を中心に活発に行うことができました。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターは全国的にも高い評価を得るようになりました。地域の不登校支援の仕組み作りを始め、教員等による学校へのアドバイスや学生のボランティア活動による不登校支援、そして大学内に設置されているフリースクールでの高い学校復帰率等、全国の府県議会・文部科学省等からの視察・研修が相次ぎました。また、この成果を受け、平成29年度から福岡県からの不登校児童生徒学校復帰支援事業も受託しています。</p> <p>国際交流では、協定締結校との文化・学術交流事業を積極的に推進しました。</p> <p>総合的には、法人化中期計画第2期を終え、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の特徴を戦略的に、積極的に形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。特に教育の分野における改革と成果には目覚ましいものがあり、社会的使命に応える質の高い成果を出していると考えます。</p>

<p>Ⅱ 中期目標項目別 1.教育</p>	<p>【平成29年度】</p> <p>1 教養教育の充実 全学横断型教育プログラムの充実に関しては、授業「社会人基礎力演習」「データベース論」「情報ネットワーク論」「問題解決演習」を実施しました。社会人・職業人に必要な知識・スキルを身につけるための新科目「入門・数学で見る日本社会」「ライフキャリア論」を平成30年度開講に向けて準備しました。教養演習テキストについては、内容を見直し、改訂版を発行しました。グローバル化への対応として授業「グローバル社会論」を実施しました。</p> <p>2 専門教育の充実 ①人間社会学部では、公認心理師受験資格並びに幼稚園教諭養成課程における再課程認定のために大幅なカリキュラムの改編を行いました。看護学部では、平成31年度から施行予定の新カリキュラム策定のための部会を立ち上げ、組織改編を含む検討を進めました。 ②専門教育の充実については、人間社会学部研究科では、「子ども教育専攻」を開設し、申請カリキュラムを着実に実施しました。看護学研究科では大学院在学学生・修了生のネットワークを構築し、学修文化の醸成にあたりました。 ③他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では実践型インターンシップとして他大学の学生と取り組むプログラムを実施しました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を基にした連携事業(大学間連携共同教育推進事業)において、8大学間の単位互換・相互受講及び共同研修の制度を推進しました。</p> <p>3 教育効果を検証するシステムの構築 ①学生による授業評価アンケート結果を受け、教員が改善・対応等を図る”授業評価対応プラン”を実施し、開示しました。学生座談会を開催し、授業等に対するニーズ把握を行いました。 ②アウトカム評価は、就職先及び卒業生にアンケートを実施し、集計・分析等を行いました。国家試験対策として、模擬試験等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。特に、看護学部では看護師、保健師、助産師の全ての試験において100%の合格率を達成しました。</p> <p>4 教員の教育能力の向上 学部ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣に加え、授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を実施しました。ラーニングコモンズにおける公開授業を実施し、高校生も参加しました。大学院研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。</p> <p>5 優秀な学生の確保 アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するため、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定等の外部英語試験結果を推薦入試(看護学部)で活用開始しました。</p> <p>6 学生支援の充実 プレ・インターンシップ及びインターンシップを充実しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。</p> <p>7 学習環境の充実 IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。ラーニングコモンズの利用促進に向け図書館セミナーを開催しました。</p> <p>8 人間社会学部の改革 全学横断型教育プログラムの「保健福祉情報教育プログラム」「キャリア形成支援プログラム」において卒論に至るカリキュラムを整備しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを11項目、Bを13項目とします。</p>
	<p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 教養教育の充実について、学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行い、全学横断型教育プログラムの充実に努めました。また、教養演習において学生の思考力・表現力をより高めるために、授業内容を改善し授業担当者へのワークショップを開催すると共に共通テキストの改訂を行うとともに、グローバル社会への対応を促す指導を目的とした新科目「グローバル社会論」を準備し、開講しました。</p> <p>2 専門教育の充実については、人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行いました。看護学部では、平成31年度からの新カリキュラム移行に向け、組織体制の見直しとカリキュラムの検討を始めました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目を充実させ、魅力あるカリキュラムとしました。大学院では、人間社会学部研究科において、地域のニーズに対応できる新たな専攻「子ども教育専攻」を開設しました。他大学との連携による教育の充実を目指して、看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」を基にした連携事業において、8大学の単位互換・相互受講の制度を運用しました。事業終了後の評価では、最高位の「S評価」を得ることができました。</p> <p>3 学生による授業評価アンケートに基づく授業改善について、学生の授業評価アンケート結果を受け、教員が改善・対応等を図り、それを書面にして学生に開示する”授業評価対応プラン”の枠組みを作りました。また、アウトカム評価システムについては、就職先及び卒業生に対してアンケートを行い、その集計・分析等を行いました。国家試験対策として、模擬試験等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回り、特に、看護学部では平成29年度に看護師、保健師、助産師のいずれの試験において100%の合格率を達成しました。</p> <p>4 教員の教育能力の向上については、毎年、FDセミナーを複数回開催しました。さらに学部では授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を可能にする仕組みを作りました。</p> <p>5 優秀な学生の確保については、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定等の外部英語試験結果を推薦入試(看護学部)で活用開始しました。</p> <p>6 学生支援の充実については、各インターンシップ・プログラムに関する段階的プログラムマップを平成27年度に整備しました。大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。</p> <p>7 学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。</p> <p>8 人間社会学部の改革としては、まずは教員組織において、平成27年度から学科制度を廃止し、全教員を「人間社会学系」所属としました。また、既存の履修コースを「地域社会」、「社会福祉」、「こども」、「心理」コースへ再編するとともに、全学横断型教育プログラムを通じた新たな履修コースとして「総合人間社会」コースを開設しました。全学横断型教育プログラムの「保健福祉情報教育プログラム」「キャリア形成支援プログラム」において卒論に至るカリキュラムを整備しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aは16項目、Bは8項目とします。</p>

2. 研究	<p>【平成29年度】</p> <p>1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、附属研究所内に設置された研究推進部において、「地域教育課題」に関する研究と「医療福祉情報システム」に関する研究の2課題を重点研究として推進しました。保健・医療・福祉分野の共同研究活性化に向け、国際シンポジウム「認知症の方とその家族への地域支援～看護と福祉の連携を考える～」を開催しました。学際的研究プロジェクト数が3件、産学官連携契約件数が2件、提携協定校との共同研究数は2件、招聘件数は2件となりました。</p> <p>② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が95%、科研費獲得件数31件、金額が4,109万円となり、目標を上回りました。</p> <p>③ 研究倫理の徹底については、厚生労働科学研究を対象とした利益相反に関する審査体制を整備し、外部有識者を入れた審査を行いました。個人情報保護法の改正及び「人を対象とした医学系研究指針」の改訂に基づき、研究倫理審査基準とチェックリストの開発を行いました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。</p>
	<p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。</p> <p>① 附属研究所の組織改編を行い、附属研究所を中心とした研究部門の強化を図ることができました。研究部門では重点領域研究を立ち上げ、地域教育課題や医療福祉情報に関わる研究を推進しました。附属研究所の4センターを3センターに整理し、地域連携や社会貢献を中心とした活動を推進できる体制としました。平成29年度には、学際的研究プロジェクト数が3件、産学官連携契約件数が2件、提携協定校との共同研究数は2件となりました。</p> <p>② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、平成24年～平成29年度の外部資金(科研費)獲得金額は年平均5,300万円を超えました。科研費応募率は平成25年度以降は90%を超える実績を積み上げました。</p> <p>③ 研究倫理の徹底については、外部有識者を入れたCOI審査体制を構築し、審査を実施しました。個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行いました。動物実験に関する委員会では、公私立大学実験動物施設協議会に入会し、動物実験に関する外部検証を受審しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを1項目とします。</p>

3. 社会貢献

【平成29年度】

1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、協定校である大邱韓医大学、三育大学、威徳大学、吉林大学珠海学院を国際交流推進部会員が訪問し、文化・学術交流推進について議論しました。後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。協定校の大邱韓医大学から訪問研究員を受け入れました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員が20名交流し、文化交流プログラムを1回実施しました。
- ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学にて実施しました(学生10名参加)。韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました(10名受入)。大邱韓医大学の看護学部生3名のグローバル・アクティブラーニングプログラム研修を受け入れました。受入留学生数は30名でした。
- ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、産炭地復興に関する国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって～ポスト興業社会における暮らしと文化～」を開催しました。

2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業(1件)が実施されました。県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。三大学連携公開講座の一環として、本学で社会貢献共同プログラム1企画を実施しました。

3 地域に貢献する大学としての認知度アップについては、以下の取組みを行いました。

- ① 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行い、延べ2,503人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ1,252人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は68.2%と高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が187件、活動学生数が延べ744人となりました。福岡県重点課題授業「土曜の風」(地域学習支援事業)を開始し、延べ1,729回の学生派遣を行いました。
- ② 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組みを行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、ペアレントトレーニング・スキルアップ講座(直方市と共催)を実施しました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせて66人の卒業生が参加しました。
- ③ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、不登校・ひきこもりサポートセンターが滋賀県議会の視察受入れを行いました。附属研究所公開講座を3コース実施しました。
- ④ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。リカレントセミナーの参加人数は244人、認定看護師コースの入学試験倍率は0.7倍、認定審査合格率は100%となりました。

実施事項別評価は、Aを4項目、Bを7項目とします。

【中期目標期間(平成24～29年度)】

1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。

- ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、平成27年度に韓国の威徳大学、平成28年度に中国の吉林大学珠海学院と交流協定を締結しました。附属研究所、国際交流センターに「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を配置しました。1年間の長期留学を含めて4年次卒業が可能なルートを整備し、2名の学生が留学しました。長期留学から帰国した学生に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進に務めました。本学プロモーションビデオ(国際版)を作成し、ホームページに掲載しました。
- ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが平成26年度から4年間連続して福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました。平成27年度から、韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました。平成29年度の受入留学生数は30名となりました。
- ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、平成29年度に国際シンポジウム「石炭産業終焉後の”地域ビジョン”をめぐって～ポスト工業社会における暮らしと文化～」を開催しました。

2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。

- ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業が実施されています。県立三大学連携推進会議で連携した社会貢献の在り方を協議し、各大学で実施予定の講演会・公開講座等の情報を共有し、教員等の講師派遣を行いました。
- ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。平成29年度には、延べ2,503人を派遣しました。また、キャンパススクール事業は延べ1,252人(平成29年度)を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は68.2%(平成29年度)とかなり高い水準に達しました。福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施しました。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、平成29年度には団体登録が187件、活動学生数が延べ744人となりました。福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、1700人(平成29年度)を超える学生を派遣しました。
- ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。直方市で行っているペアレントトレーニング講座は、平成26年度から直方市との共催事業として実施しています。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせて66人の卒業生(平成29年度)が参加しました。
- ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、不登校・ひきこもりサポートセンターに、4つの府・県議会と文部科学省からの視察・研修を受け入れました。
- ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。認定看護師コースの認定審査合格率は100%となっています。

実施事項別評価は、Aは6項目、Bは5項目とします。

4. 業務運営	<p>【平成29年度】</p> <p>1 運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 事務局機能の強化については、九州大学主催のSD研修に3名、公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に2名が参加しました。学内FD・SD研修「大学改革セミナー」を実施しました。データ交換等に新ファイル共有システムを積極的に活用しました。三大学共用の会計システム運用会議を3回実施しました。</p> <p>② 教員の士気を高める教育環境の整備については、ベストティーチャー賞を1名選定しました。</p> <p>③ 教員の個人業績評価については、平成28年度分の個人業績評価を実施しました。</p> <p>④ リスクマネジメント体制については、九州北部豪雨時に迅速な情報収集と適切な判断により、早期救援が可能となりました。防犯カメラの増設等、学生の犯罪被害防止環境の整備を図りました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを2項目とします。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 事務局機能の強化については、プロパー職員採用を計画どおり勧め、退職による欠員に対しても単独選考試験を実施し、補充を行いました。公立大学協会主催の事務職員会計研修への参加に加え、新たに九州大学主催のSD研修へも参加することができ、事務局職員の資質向上を図ることができました。</p> <p>② 教員の士気を高める教育環境の整備については、平成25年度より教員表彰(ベストティーチャー)の公募を行いました。教員の授業担当数調査をもとに負担の平準化を進め、平成28年度開設の大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図りました。</p> <p>③ 教員の個人業績評価については、平成25年度に教員個人業績評価基準を大幅に見直し、客観性を高めた評価の枠組みの中で、平成26年度以降の個人業績評価を実施しました。</p> <p>④ 平成26年度に基本指針及び危機管理規程を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定しました。九州北部豪雨時には現地で孤立した学生・教員の救援に対し、適切な判断と対応をとることができました。防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図りました。学内施設を改修し、初めて男子寮を整備しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを3項目、Bを1項目とします。</p>
5. 財務	<p>【平成29年度】</p> <p>1 外部研究資金等の積極的確保については、外部研究資金公募情報をホームページに掲載し、全教員にメールを発信するとともに、科研費応募率向上のための研修会を実施しました。大学広報誌により県大基金への寄付金募集等を行うとともに、自主財源基金設立に対する検討を行いました。</p> <p>2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組みを行いました。</p> <p>① 業務改善による経費の削減については、急を要する物品以外は消耗品の集中発注システムを活用し、一括発注に努めました。ストレスチェック業務を外部委託しました。女子寮周辺の街灯をLED化するとともに、屋内蛍光灯が故障した際には随時LED灯への切替えを行いました。</p> <p>② 人件費の抑制については、教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、退職教員の補充においては若手教員採用に努めました。ワークライフバランスの推進と時間外勤務の縮減を図るため、週休日勤務の振替を徹底しました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 外部研究資金獲得については、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することにより推進しました。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を開始しました。科研費を含む外部資金の獲得は、年平均約8,700万円と目標を大幅に上回りました。</p> <p>2 業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用しました。アウトソーシング可能な業務の検討を行い、国際交流関係業務とストレスチェック関係業務についてアウトソーシングを実施しました。退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めました。時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけ、大きな効果を上げました。</p> <p>実施事項別評価は、Aを2項目、Bを1項目とします。</p>

<p>6. 評価及び情報公開</p>	<p>【平成29年度】</p> <p>1 自己評価の見直しについては、県公立大学法人評価委員会の評価結果について大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知するとともに、教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を行い、ホームページに掲載しました。アニュアルレポートの見直しを行い、新たに学部等紹介、卒業時学修到達度調査結果を追加しました。</p> <p>2 県大ブランド力の強化については、ホームページのスマートフォン閲覧を可能とした結果、アクセス数が大幅に増加しました。フェイスブックを適宜更新し、広報活動の充実を図りました。本学の教育研究情報やイベント情報等について積極的に新聞社等へ情報提供しました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを2項目とします。</p> <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <p>1 県評価委員会からの評価結果については、部局長会議、改革推進委員会等で審議し、大学運営に反映させました。毎年度、各教員の教育・研究・社会貢献の実績を取りまとめ、大学ホームページに公表しました。「内部質保証システム」の体制構築に向けて改革推進委員会を設置しました。同年度からアニュアルレポートの作成を開始し、大学ホームページで公表を始めました。平成26年度に自己点検及び評価に加えてIRを推進する自己点検評価室を設置しました。平成27年度に認証評価ワーキンググループを設置し、平成28年度大学機関別認証評価を受審しました。</p> <p>2 ホームページの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施しました。平成27年度にはスマートフォンに対応したホームページを新規に作成、公開しました。文科省採択事業や大学コンソーシアム、全学横断型教育プログラムのパナー掲載を行いました。大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行いました。</p> <p>実施事項別評価は、Bを2項目とします。</p>
<p>Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について</p>	<p>【平成29年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までのキャリア形成支援体制の強化については、プレ・インターンシップとインターンシップの取組を推進しました。GPAをもとに、優秀学生を表彰し、低GPA学生全員の面接指導・支援を行いました。 ・人間社会学部の改革については、全学横断型教育プログラムのうち「保健福祉情報プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」において、卒論に至るカリキュラムを整備しました。「保健福祉情報プログラム」ではゼミを開設しました。 ・附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、昨年度に引き続き、研究推進部において地域教育課題と医療福祉条法の重点領域研究を進めました。保健医療福祉分野の学術的共同研究活性化のため、国際シンポジウム「認知症の方とその家族への地域支援～看護と福祉の連携を考える～」を開催しました。 ・外部研究資金等の積極的確保については、ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から創設された科研費補助制度を運用しました。科研費を含む外部資金の獲得は、50,860千円と目標を上回りました。 <p>【中期目標期間(平成24～29年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学から卒業までのキャリア形成支援体制の強化については、プレ・インターンシップとインターンシップの取組を推進しました。GPAをもとに、優秀学生を表彰し、GPAの低い学生全員の面接指導・支援を行いました。 ・人間社会学部の改革については、教員組織を大幅に見直し、学科所属から学部所属としました。その上で、教育体制を学科制からコース制に移行しました。連動して、全学横断型教育プログラムに対応した教員人事をおこないました。全学横断型教育プログラムのうち「保健福祉情報プログラム」と「キャリア形成支援プログラム」において、卒論に至るカリキュラムを整備しました。「保健福祉情報プログラム」ではゼミを開設しました。 ・附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、附属研究所の組織改編を行い、附属研究所を中心とした研究部門の強化を図ることができました。研究部門では重点領域研究を立ち上げ、地域教育課題や医療福祉情報に関わる研究を推進しました。附属研究所の4センターを3センターに整理し、地域連携や社会貢献を中心とした活動を推進できる体制としました。 ・外部研究資金等の積極的確保については、事務局機能を強化し、ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めました。科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を開始しました。科研費を含む外部資金の獲得は、年平均約8,700万円と目標を大幅に上回りました。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 1 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
----------------------	---

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	暫定 ↓ 中期	年度	自己評価		データ 番号	通し番号																	
			中期	年度				中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期		年度																	
1 教養教育の充実 公立大学法人 福岡県立大学の 教養教育は、豊 かな感性、柔軟 な思考力、緻密 な論理構成力お よび自己表現能 力の習得をめざ す。	1【カリキュラムと科目内容の検討・改 編】 <人間社会学部><看護学部> ①専門科目の基礎と社会人・職業 人として身につけるべき教養科目 を中心に、カリキュラムや科目内 容を検討・改編する。 ○達成目標 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上80%	1-1【平成29年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 <人間社会学部><看護学部> ○新科目の設置に伴い、学生の教育効果に基いて 既存科目の見直しを行う。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身に つけるための新科目の実施に向けて準備をする。 ○全学横断型教育プログラム関連科目を実施する。 ○28年度に実施したスキルアップ・ゼミの課題を抽 出し、より高い教育効果を生むゼミ内容に改善、 実施する。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ2コースの改善及び実施 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 <人間社会学部><看護学部> ○既存科目の見直しについては、全学共通科目と全学横断型科目の再編成を行った。また、教養科目カテゴリーの 変更を検討した。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目については、「入門・数字で見る日本社会」、 「ライフキャリア論」を30年度開講に向けて準備した。 ○全学横断型教育プログラム関連科目の実施に関しては、本年度前期から「社会人基礎力演習」を、後期から 「データベース論」、「情報ネットワーク論」、「問題解決演習」を開講し実施した。 ○スキルアップ・ゼミの改善、実施については、「スタートダッシュのための就活塾」(2月、3月全2回)と 「Critical thinking and discussion on Japanese pop culture」(1月全4回)を昨年度の内容を改善し実施した。 ○目標実績 ・スキルアップゼミ2コースを改善し実施した。 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上89.6%	A		【高く評価する点】 ・全学共通科目の再編成として 科目の削減及び次年度開講の キャリア形成支援2科目の準備 を行った。 ・全学横断型関連科目として新 たに4科目を開講し教育プログ ラムの充実を図った。 【実施(達成)できなかった点】			1																	
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部将来構想や看護学部学生のニーズ等をふまえ、教養科目のカテゴリーの見直しを検討してきた。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新設科目として平成28年度より「社会人基礎力演 習」を開講することを決定した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースの改編・改善をしながら実施した。 ○全学横断型教育プログラムである保健福祉情報教育プログラムに必要な「数学概論」「情報処理応用演習」を平 成28年度より新規開設することを決定した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○既存科目を見直し全学共通科目と全学横断型科目の再編成を行った。また、教養科目カテゴリーの変更を検討 した。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新規科目「入門・数字で見る日本社会」「ライフキャ リア論」を30年度開講に向けて準備した。 ○全学横断型教育プログラム関連科目として、「子供学習支援論」「数学概論」「情報処理応用演習」「社会人基礎力 演習」「データベース論」「情報ネットワーク論」「問題解決演習」を開講した。 ○スキルアップゼミ2コースを開講し、更なる改善を行った。 ○学生へ豊かなカリキュラムを提供するため、放送大学との単位互換協定を活用し、科目の充実を図った。 ○目標実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">No.1</td> <td colspan="6">目 標 実 績</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>学生の成績: 教養科目全て C以上80%</td> <td>89.4%</td> <td>88.2%</td> <td>93.4%</td> <td>89.0%</td> <td>92.3%</td> <td>89.6%</td> </tr> </table>	No.1	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績: 教養科目全て C以上80%	89.4%	88.2%	93.4%	89.0%	92.3%	89.6%	B ↓ A		【高く評価する点】 ・学生の教育効果に基づき幅広 く体系的な教養科目の履修を促 すために、全学共通科目を大幅 に見直し科目の削減と再編成を 行った。 ・全学横断型新規科目を複数増 設し再編成を行い、全学横断型 教育プログラムの充実に努め た。 【実施(達成)できなかった点】
No.1	目 標 実 績																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																						
学生の成績: 教養科目全て C以上80%	89.4%	88.2%	93.4%	89.0%	92.3%	89.6%																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																										
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																								
※1 教養教育の 充実 の続き	2【教養演習・総合科目の改善】 ＜両学部の教養演習、総合科目＞ ①学生の課題発見・解決能力、 論理的思考力及び自己表現 能力を高めるために、教養演 習等における授業内容と方法 を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善 ②語学について、従来の語学 教育を見直し、アジアととも に発展する国際交流を推進さ せるために、アジア諸国の異文 化理解と共にコミュニケーション 能力を高める。 ・英語・中国語・コリア語教育 の充実 ○達成目標 ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ :全学の教養演習及び総合 科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目 内容の検討・改編 :2科目増設	2-1 【平成29年度計画】 【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して 行う。 ○学生編集委員会を中心に、平成28年度教養テ キストを改善し、改訂版を作成する。また、共 通テキストの内容について、さらなる改編の見 直し案作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応す るための新科目の実施に向けて準備をする。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から 導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年 生対象に一年生は年2回、二年生は年1回実施 する。 ○「教養演習英語クラス」を継続して開講する。 ○異文化理解のために購入した伝統衣装や伝統 工芸品、DVD等をコリア語教育、中国語教育に 積極的に活用する。 ○達成目標 ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ :全学の教養演習及び総合科目において C以上80%		1	【平成29年度の実施状況】 【教養演習・総合科目の改善】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に関しては、本年度の担当者にワークショップを行った。また、担当者からの 相談に対応する体制をとった。 ○教養テキストの改善、共通テキストの改変見直し案については、内容を検討し改訂版を発行した。 ○グローバル化へ対応するための新科目の実施については、「グローバル社会論」を本年度後期に実施した。 ＜語学教育の充実＞ ○外部テストG-TELPを4月に各学部・学科の1年生に実施し、本年度後期には1・2年生に実施した。 ○「教養演習英語クラス」を後期に実施した。 ○異文化理解のために購入した資料は、コリア語教育、中国語教育において積極的に活用した。 ○目標実績 ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 全学の教養演習及び総合科目において C以上93.1%		A	【高く評価する点】 ・教養演習において学生の思考 力・表現力をより高めるために、 共通テキストの内容を改善し改 訂を行った。 ・グローバル社会への対応を促 す指導を目的とした新科目「グ ローバル社会論」を開講した。 【実施(達成)できなかった点】			2																								
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に向けての全学「教養演習」担当者会議を継続して行い、指導方法等につ いての検討と知識やスキルの共有を行った。 ○学生編集委員会を中心に、教養演習のテキストを改善し、改訂版を作成してきた。 ○グローバル化へ対応するための新科目「グローバル社会論」を平成28年度に新規開講することを決定した。 ＜語学教育の充実＞ ○英語教育においては、平成25年度から外部テストを導入し、各学部・学科の1、2年生対象に一年生は年2回、2年 生は年1回実施した。また、平成26年度から教養演習英語クラスを開講した。 ○コリア語教育、中国語教育においては、異文化理解のために伝統衣装や伝統工芸品、DVD等を購入し、積極的 に活用した。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討を行い、平成26年度後期から看護学部2年生の英語クラスを能 力別編成に変更し、平成27年度から看護学部・オーラルコミュニケーションⅡ(英語)を、これまでの2クラスから3クラ スに再編成して実施した。また、「Advanced English Achievement」を平成28年度から新規開講することを決定し た。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜教養演習・総合科目の改善＞ ○教養演習の授業内容・方法の充実に向けて、授業担当者にワークショップを行い、相談に対応する体制を取った。 ○教養演習のテキストの内容を見直し改訂版を発行し、テキストの改善を行った。 ○グローバル化へ対応するための新科目「グローバル社会論」を開講した。 ＜語学教育の充実＞ ○英語外部テストG-TELPを1・2年生に実施し英語教育に活用した。 ○教養演習英語クラスの実施を継続した。 ○異文化理解のために購入した資料をコリア語、中国語教育において活用した。 ○語学教育カリキュラムの改編・増設に向けた検討・実施を継続して行った。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1249 1514 2160 1665"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.2</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績: 全学の教養演習及び総合科目 C以上80%</td> <td>92.3%</td> <td>94.5%</td> <td>98.9%</td> <td>91.4%</td> <td>97.1%</td> <td>93.1%</td> </tr> <tr> <td>語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編: 2科目増設</td> <td></td> <td></td> <td>1科目増設</td> <td></td> <td>1科目増設</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No.2	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績: 全学の教養演習及び総合科目 C以上80%	92.3%	94.5%	98.9%	91.4%	97.1%	93.1%	語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編: 2科目増設			1科目増設		1科目増設			B ↓ A	【高く評価する点】 ・教養演習において学生の思考 力・表現力をより高めるために、 授業内容を改善し授業担当者 へのワークショップを開催す ると共に共通テキストの改訂を行 った。 ・グローバル社会への対応を促 す指導を目的とした新科目「グ ローバル社会論」を準備し、開 講した。 【実施(達成)できなかった点】
No.2	目 標 実 績																																		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																													
学生の成績: 全学の教養演習及び総合科目 C以上80%	92.3%	94.5%	98.9%	91.4%	97.1%	93.1%																													
語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編: 2科目増設			1科目増設		1科目増設																														

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																				
2 専門教育の充実	1【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において C以上80%	1-1【平成29年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教育体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・学生が科目間の関係や履修の順序を理解しやすいよう示し、地域社会と国際共生の視点に立った教育の充実を図る。 ・演習や社会調査実習を通じて、学生が研究課題を主体的に設定、分析、考察できるよう支援する。 ＜社会福祉学科＞ ・平成28年度に改正した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実のためカリキュラムを実施する。なお、今後、社会福祉士養成教育課程の改正の動向があるので情報収集し、必要な対応の検討を開始する。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラム(基幹科目、コース展開科目、関連科目)の実施とともに、在学生への移行措置を実施・検証する。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行う。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムの評価と検討を行う。看護基礎教育のコアカリキュラムが平成29年10月以降に提示され、平成31年4月からの施行となることを受け、新カリキュラム作成に向けての準備を行う。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において : C以上 80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教育体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・公共社会学科専門教育科目にコアとなる科目群を設定し、カリキュラムマップの整備を進めた。 ・演習や社会調査実習を経て、学生がより主体的に独自性の高い卒業論文を作成できるよう、指導内容と方法を協議し、学生へのオリエンテーションや個別指導で示した。 ＜社会福祉学科＞ ・平成28年度に改正した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実のためカリキュラムを実施した(専門領域の担当教員による実習評価の導入、学校ソーシャルワーク実習時間の充実)。社会福祉士養成教育課程の改正の動向について情報収集を行った。 ＜人間形成学科＞ ・前年度に引き続き、新旧学則の移行期間における授業展開を確認し、特に科目の開講年について3・4年生に周知した。また、公認心理師、幼稚園教諭養成課程における再課程認定のためのカリキュラムや授業科目の変更等を行った。また、公認心理師の資格概要及び移行措置について在学生に周知した。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行う。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムについて、検証委員会及び教務部において見直し課題について検討を行った。また、10月に提示された文部科学省による「看護教育モデル・コア・カリキュラム(案)」(平成31年4月からの施行)を参考にしつつ、新カリキュラム策定部会を立ち上げ検討を進めた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図っている。また、実習での看護倫理に関する知識や態度を身につけられるように「実習のしおり」の内容の見直し、強化を図った。 ・倫理に関する講義を前期に4科目において計4コマ実施した。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数 : 全専門科目 ・学生の成績 : 専門教育科目において : C以上 87.4%	A	【高く評価する点】 ・人間社会学部において、公認心理師受験資格並びに幼稚園教諭養成課程における再課程認定のために大幅なカリキュラムの変更を行った。 【実施(達成)できなかった点】		3																						
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成25年度に作成した計画に基づき、学科制からコース制に移行する過程で、時代のニーズに合わせて履修コースの改廃と再構築を行い、専門性を高めるとともに資格科目を重視するためにカリキュラムの大幅な見直しを実施した。 ＜看護学部＞ ○平成24年度からの新カリキュラムの科目を滞りなく実施した。 ・新規科目及び変更科目(単位数の変更や科目名の変更など)について、4年間調査を継続的にを行い、カリキュラムを滞りなく実施した。 ・学生からの聞き取り調査について、4年間実施したことで、授業内容の検討やシラバスへの反映に役立てた。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につけるために、1年生から4年生までを対象として、新入生オリエンテーションや実習前オリエンテーション時に倫理教育を継続的に行った。また、倫理に関する講義を継続的に実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○平成27年度までに計画された専門教育充実のためのカリキュラムの大幅な変更を行った。さらに公認心理師の申請や幼稚園教諭養成の再課程認定のためのカリキュラムの変更を行った。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラム検討委員会を立ち上げ、専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教育体制の検討を進めた。新カリキュラムを実施する中で、科目の新設・改廃等を行い、専門教育と資格関係科目の充実を行った。 ○目標実績 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.3</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>シラバスの改善: 全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> <td>全専門科目</td> </tr> <tr> <td>学生の成績: 専門教育科目 C以上80%</td> <td>89.4%</td> <td>89.2%</td> <td>88.4%</td> <td>88.5%</td> <td>89.2%</td> <td>87.4%</td> </tr> </tbody> </table>		No.3			目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	シラバスの改善: 全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%
No.3	目標実績																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
シラバスの改善: 全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目	全専門科目																									
学生の成績: 専門教育科目 C以上80%	89.4%	89.2%	88.4%	88.5%	89.2%	87.4%																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度															
※2 専門教育の 充実 の続き	2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	2-1 【平成29年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを実施する。 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」を実施した。 ○目標実績 ・学生の成績：教育プログラム C以上89.7%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		4	4																
		1			【平成24～27年度の実施状況概略】 ○東洋看護学演習については、その内容を充実させるために、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えを行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」を実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 781 2110 898"> <thead> <tr> <th>No.4</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績：教育プログラム C以上80%</td> <td>100.0%</td> <td>98.2%</td> <td>98.9%</td> <td>90.9%</td> <td>93.8%</td> <td>89.7%</td> </tr> </tbody> </table>						No.4	目標実績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績：教育プログラム C以上80%	100.0%
No.4	目標実績																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
学生の成績：教育プログラム C以上80%	100.0%	98.2%	98.9%	90.9%	93.8%	89.7%																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																										
※2 専門教育の 充実 の続き	3【実践力強化のための実習教育の 充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護実践能力育成のための 実習教育の充実 ②人間社会学部における実習 教育の充実 ③実習前後における学習内容 の充実 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習 指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における 事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%	3-1 【平成29年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回 開催 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを 行う ・実習指導者研修会の内容を見直し、実施する。 ○コアカリキュラムが提示されることを受け、看護 基本技術習得支援の継続と項目の見直し を行う ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育につ いて現状を分析検討し、課題を明らかにして いく。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・社会調査実習の教育内容の明確化、調査技 法に基づく教育方法の標準化、教育実習の 事前指導の拡充を行う。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・各実習間の指導内容の標準化を図るための 取組を行う。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・実習指導体制と指導内容の見直しを行う。 ○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ：実習指導者研修会実施 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前 事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績：事前事後指導科目 C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、開催した(3月9日)。 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行った。 ・実習指導者研修会を実施した(9月12日)。 ○コアカリキュラムが提示されることを受け、看護基本技術習得状況について分析した。その結果をもとに、看護基本技術習得向上につながる教育、支援について検討した。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ・昨年度から教育実習実施の前年度に学校インターンシップを義務づけた。昨年度は6人が参加し、今年度も実習実施予定学生全員(13人)が行った。学生の実践的な指導力の育成に努めた。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・一般社団法人社会調査協会より、平成29年度助成対象教育組織に選定された。平成28年度に連続して優れた社会調査実習計画であることが評価された。社会調査実習担当者会議において、教育内容と方法の検討、実習の到達目標等の標準化、危機管理の確認を行った。実習中の被災においては適切な対応をとった。学生へのオリエンテーションを実施した。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・昨年度の検討をふまえて変更した記録様式を用いて実習を実施した。また、実習の履修条件や実習フィールド、時間数についても各大学の情報を収集集中である。さらに10月11日に社会福祉コースFD会議を開催し、3実習における学生の様子や実習指導の方法、実習評価の方針等について情報共有した。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・各実習の指導内容の連関を高めるよう事前事後の指導について、教育成果の向上をねらい、学生に求める資質と自己評価の方法の修正を行った。学年間の指導の連続性については、実習後に報告会を実施して、異学年間で相互に学び合えるよう授業の体制を整え、実習の学びを具体的に見通せるようにした。 ○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 1回 ：実習指導者研修会実施 1回 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 100% ・学生の成績：事前事後指導科目 C以上91.9%	B	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	5																												
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜看護学部＞ ○臨地実習の体制に関しては、毎年実習先の確保が難しい状況ではあるが、実習指導者連絡会を開催することで、臨床とのつながりを強化できた。また、研修会が臨床教授の申請の要件ともなっているため、看護学にとって重要な実習学習の質の担保につながった。 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれの実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにするための話し合いの場を設定し、実習指導の充実を図ってきた。 ・公共社会学科においては、教育実習事前・事後指導を強化し、平成25年度に「教職課程履修ガイド」を作成した。社会調査関係科目について開講年次の検討を行い、平成28年度から全体として開講年次を早めることとした。 ・社会福祉学科においては、教員を増やすなど実習指導体制の強化を行ってきた。平成26年度には、社会福祉士、精神保健福祉士、学校ソーシャルワークの各実習において、「実習の手引き」の改訂・作成、新たな実習先の開拓、実習教育プログラムの見直しなどを行った。 ・人間形成学科においては、実習の種類(保育所・施設・幼稚園)毎の実際の理解を深めるために、平成25年度に子どもコース学生交流会(実習報告・就職対策)、平成26年度に異学年合同授業、平成27年度に卒業生を招いて子どもコース就職懇話会・異学年交流会を企画・実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜看護学部＞ ・「教員・実習指導者研修会」ならびに「実習指導者連絡会」では、講演・演習を通して、実習指導者と教員間で、実習中の学生が抱えている問題を共有しながら、学生のやる気を育てる実習教育について学びを深めることができた。その結果、臨地実習教育における実習指導者と教員との連携の重要性を確認することができた。 ・学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入を行った。 ＜人間社会学部＞ ・3学科の学生に関連する教育実習では、実施の前年度に学校インターンシップを行い、平成28年度は6名、平成29年度は13名が参加した。学生の実践的な指導力の育成に努めた。 ・公共社会学科の社会調査実習は、一般社団法人社会調査協会より、平成28年度、平成29年度と優れた社会調査実習計画であることが評価された。社会調査実習担当者会議において、教育内容と方法の検討、実習の到達目標等の標準化、危機管理の確認を行い、学生へのオリエンテーションを実施した。 ・社会福祉学科の各実習における指導内容の連関性を高めるために、平成28年度に記録様式の修正・変更を行い、平成29年度から各実習で活用した。また、FD会議を行い、実習報告会、実習指導方法、実習評価の方針等について情報共有し、指導内容を見直した。 ・人間形成学科の子どもコースでは、各実習の実務経験がある教員を採用し、連携を確認した。事前事後指導において、日誌の刷新、各実習の指導内容の連関を高めるよう指導内容の相違点を確認し、成果の向上をねらい、修正を行った。学年間の指導の連続性については、実習後に報告会を実施して、異学年間の学生の交流を行い、相互に学べるよう体制を整えた。 ○目標実績 No.5 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%</td> <td>80.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>学生の成績：事前事後指導科目C以上80%</td> <td>95.4%</td> <td>94.0%</td> <td>94.4%</td> <td>90.8%</td> <td>96.1%</td> <td>91.9%</td> </tr> </tbody> </table>						目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回	実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	学生の成績：事前事後指導科目C以上80%
	目標実績																																				
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																															
看護学部における臨地実習指導体制：連絡会議年1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回																															
実習における事前事後指導：事前事後指導科目3以上75%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																															
学生の成績：事前事後指導科目C以上80%	95.4%	94.0%	94.4%	90.8%	96.1%	91.9%																															

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																		
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																
※2 専門教育の 充実 の 続 き	4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	4-1【平成29年度計画】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」として平成27年度から単位化した「専門職連携入門」を充実を図りながら実施 ○「全学横断型科目」(「不登校・ひきこもり援助論」、「子供学習支援論」、「問題解決演習」)を充実を図りながら実施 ○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施 ○社会貢献フォーラムの実施 ○公開卒論発表会の実施 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○「専門職連携入門(全8回)」は後期に開講し、53名が履修した。 ○「全学横断型科目」の「不登校・ひきこもり援助論」計242名(公共36、福祉54、形成57、看護92、交換留学生3)、「子供学習支援論」132名(公共22、福祉23、形成29、看護58)、「問題解決演習」:3名(福祉3)が受講した。 ○「海外語学実習事前指導」計27名(公共13、福祉2、形成7、看護5)を開講、「海外語学実習」計27名(公共13、福祉2、形成7、看護5)を実施した。 ○社会貢献フォーラムは後期(2月26日)に実施した(参加者157名)。 ○公開卒業論文発表会は後期に実施した(人間社会学部:社会福祉、公共社会、人間形成、看護学部:基盤看護、成人看護、老年看護、女性小児、精神看護、在宅地域看護、学校保健)。外部参加者は210名であった。 ○目標実績 ・学生の成績 :C以上 97.3%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			6																	
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るために、平成26年度まではオムニバス方式で両学部が計画した内容の講座を行い、平成27年度にはそれらをまとめ、「専門職連携入門」として単位化した。 ○「両学部で学ぶ専門的連携科目」に関しては、名称を「全学横断型科目」に変更し、科目の見直し、整理統合、さらに新しい科目を加えた。 ○「海外語学実習事前指導」および「海外語学実習」を毎年度実施した。 ○社会貢献フォーラムを毎年度実施した。公開卒論発表会は、人間社会学部は平成24年度から、看護学部は平成27年度から実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○平成27年度から単位化した「専門職連携入門」の充実を図るために両学部による専門職を講師に招き、平成28年度から実施した。 ○地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって他者と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目指して、全学横断型科目として8科目を開講した。 ○「海外語学実習」を継続して実施した。 ○社会貢献フォーラム、公開卒論発表会を継続して実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1108 2151 1234"> <tr> <th>No.6</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <td></td> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> <tr> <td>学生の成績: C以上80%</td> <td>98.5%</td> <td>97.9%</td> <td>100.0%</td> <td>99.0%</td> <td>96.1%</td> <td>97.3%</td> </tr> </table>	No.6	目標実績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	学生の成績: C以上80%	98.5%	97.9%	100.0%	99.0%	96.1%	97.3%	B ↓ A	【高く評価する点】 ・学生同士が、学部学科の枠を超え、相互の専門性への理解を深めるため、全学横断型科目の充実により、魅力あるカリキュラムとすることができた。 【実施(達成)できなかった点】
No.6	目標実績																										
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																					
学生の成績: C以上80%	98.5%	97.9%	100.0%	99.0%	96.1%	97.3%																					

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																			
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																	
※2 専門教育の 充実 の続き	5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視 したカリキュラム体制にしていく ため、人間社会学部の改革検 討に合わせて大学院修士課程 の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率(入学者数)／(入学定員) :100%	5-1【平成29年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部 の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリ キュラムの見直し検討 心理臨床専攻 ・日本臨床心理士資格認定協会によるカリキュ ラムを維持しながら、公認心理師に必要な科 目を新設し、カリキュラムを整備する。 社会福祉専攻 ・計画的な論文作成を促すため、1年生及び長 期履修の1・2年生を対象とした新たな中間発 表の場を設ける。 子ども教育専攻 ・設置計画に即して申請したカリキュラムを着実 に実施する。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 子ども教育専攻 :100%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせた大学院修士課程カリキュラムを見直し検討 した。 ＜心理臨床専攻＞ ・公認心理師に必要な科目の新設および名称変更のために履修規則を改正し、開講科目確認書、心理実践実習 確認申請書を文部科学省・厚生労働省の担当課に11月27日に提出した。その結果、3月30日に実習演習科目に ついての基準を満たすとの回答を得た。 ＜社会福祉専攻＞ ・在籍するすべての学生を対象とした中間発表会(10月7日)を実施した。 ＜子ども教育専攻＞ ・開設1年目にあたる平成29年度は、設置計画に即して、申請したカリキュラムを着実に実施した。 ○目標実績 ・充足率 社会福祉専攻 :83.3% 心理臨床専攻 :133.3% 子ども教育専攻 :66.7% 人間社会学研究科全体:100%	A	【高く評価する点】 ・子ども教育専攻を開設し、申請 カリキュラムを着実に実施した。 また公認心理師受験資格のた めの大幅なカリキュラム改変を 行った。 【実施(達成)できなかった点】		7																																			
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学部改革に対応し、かつ時代のニーズに対応するために、地域教育支援専攻を廃止し、新たな専攻として「子 ども教育専攻」を開設する準備を行うとともに、社会人学生のニーズに合わせ土日開講を導入する等の目標である充 足率を達成できる体制を構築した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜心理臨床専攻＞ 公認心理師に対応する大幅なカリキュラム改変を行い、文部科学省・厚生労働省の認可を得た。 ＜社会福祉専攻＞ 研究法に関わる新たな科目を複数新設した。 ＜子ども教育専攻＞ 平成29年度に開設し、申請カリキュラムを着実に実施した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.7</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>充足率: 社会福祉専攻 100%</td> <td>33.3%</td> <td>33.3%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>50.0%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>充足率: 心理臨床専攻 100%</td> <td>150.0%</td> <td>166.7%</td> <td>133.3%</td> <td>133.3%</td> <td>166.0%</td> <td>133.3%</td> </tr> <tr> <td>充足率: 地域教育支援専攻 100%</td> <td>100.0%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> <td>募集停止</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>充足率: 子ども教育専攻 100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>33.0%</td> <td>66.7%</td> </tr> </tbody> </table>		No.7			目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	充足率: 社会福祉専攻 100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	50.0%	83.3%	充足率: 心理臨床専攻 100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%	166.0%	133.3%	充足率: 地域教育支援専攻 100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止			充足率: 子ども教育専攻 100%	
No.7	目標実績																																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																						
充足率: 社会福祉専攻 100%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%	50.0%	83.3%																																						
充足率: 心理臨床専攻 100%	150.0%	166.7%	133.3%	133.3%	166.0%	133.3%																																						
充足率: 地域教育支援専攻 100%	100.0%	0.0%	0.0%	募集停止																																								
充足率: 子ども教育専攻 100%					33.0%	66.7%																																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度															
※2 専門教育の 充実 の続き	6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互 交流による高度実践能力の 育成 ③大学間のがんプロフェッショ ナル連携の構築 ○達成目標 ・充足率(入学者数)/(入学定員) :100%	6-1	1	1	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞ ○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースについては、継続して情報 収集及び教育の充実に向けた整備を行う。 ○現場看護職の相互交流による高度実践能力の 育成(継続) ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者の研究支援を行う ・CNSコース2コースの修了後の専門看護師資格 習得までの支援体制を整備(継続)</p> <p>○達成目標 ・充足率(入学者数)/(入学定員):100%</p>	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.1 「②入学者 選抜試験 (大学院)」	8	8																
		1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○高度な看護専門職教育としては、研究科コースのみならず3つのCNSコースを開設しそれぞれ専門看護師を輩出 して地域の看護力向上に貢献した。 ○特にCNSコースではCNSの再申請の要件ともなるため、修了後の継続的な研究支援などを実施した。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築では全体研修会などをおとして連携が深まった。</p> <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○CNSコースに関しては38単位コース移行に伴って継続した情報収集と教育の充実に向けた整備を行った。 ○研究科コース修了者の研究支援を行った。 ○がんCNSコースの最終の学生1名が平成29年度末に修了した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.8</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>充足率: 100%</td> <td>33.3%</td> <td>50.0%</td> <td>83.3%</td> <td>75.0%</td> <td>75.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table>	No.8						目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	充足率: 100%	33.3%	50.0%	83.3%
No.8	目 標 実 績																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
充足率: 100%	33.3%	50.0%	83.3%	75.0%	75.0%	100.0%																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																												
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																										
※2 専門教育の充実の続き	7【他大学との連携による教育の充実】 ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部> ①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。 ②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。 ○達成目標 ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上/年 <人間社会学部> ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 <看護学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 1回/年 :テレビ会議 2回以上/年	7-1 【平成29年度計画】 【他大学との連携による教育の充実】 <人間社会学部> ・公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討する。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施する。 ○ナーシングキャリアカフェを開催する。 ○連携大学での講義の単位互換または相互受講を実施する。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施する。 ○達成目標 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 2回/年 :テレビ会議 2回以上/年	1	1	【平成29年度の実施状況】 【他大学との連携による教育の充実】 <人間社会学部> ○実践型インターンシップとして他大学の学生と一緒に取り組む連携プログラムを実施した(9月~2月、本学学生2名)。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実。 ・連携9大学になりケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を4回開催した(6月9日、9月29日、12月1日、2月23日)。また、コンソーシアムの学長懇談会を開催した(12月8日)。 ○キャリア像確立講義のオンデマンド配信を行い、11名が受講した。(福岡県立大学9名、聖マリア学院大学2名) ○ナーシングキャリアカフェを6回開催した(沖縄県立看護大学9月9日~10日、琉球大学9月30日、聖マリア学院大学11月11日、産業医科大学12月19日、福岡県立大学1月20日、国際医療福祉大学2月10日)。 ○新たに単位互換包括協定を9大学で締結(9月1日)し、連携大学での講義の単位互換または相互受講は、国際看護論Ⅰ(聖マリア学院大学開講)に2名が受講(福岡県立大学)した。 ○災害看護領域における合同短期研修を実施し、7名の学生(福岡県立大学、聖マリア学院大学)が参加し(9月13日)、国際協力看護領域における合同短期研修は、2名の学生(福岡県立大学、琉球大学)が参加した(3月12日)。 ○目標実績 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムによる開講科目数 :2科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 5回 :テレビ会議 4回	A	【高く評価する点】 ・コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24~28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。 【実施(達成)できなかった点】		9																												
					【平成24~27年度の実施状況概略】 <人間社会学部> ○平成24年度から「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を通じて、連携9大学で「効果的かつ持続可能なインターンシップモデルプログラム」を開発し、平成25年度から1・2年次生を対象として「プレ・インターンシップ」を単位化した。平成26年度から「大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)」を通じて連携3大学で中長期・実践型インターンシップ・プログラムの開発に取り組み、中長期・実践型インターンシップを実施した。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実を図るために、学長会議を毎年開催した。 ○連携8大学において、平成26年度から講義の単位互換・相互受講を開始実施した。 ○連携8大学共同で、キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施した。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 <人間社会学部> ○他大学の学生と一緒に取り組む実践型インターンシップを継続して実施した。 <看護学部> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実を図るために、学長会議を毎年開催した。 ○平成29年度に単位互換に関する包括協定をコンソーシアム連携9大学で再締結し、講義の単位互換・相互受講を継続実施するとともに、連携大学共同で、キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施した。 ○国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施した。 ○コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24~28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.9</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学間連携による開講科目数: 1科目以上</td> <td>1科目</td> <td>2科目</td> <td>3科目</td> <td>3科目</td> <td>2科目</td> <td>2科目</td> </tr> <tr> <td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議: 対面会議 2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>6回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>ケアリングアイランドコンソーシアム会議: テレビ会議 2回以上</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>0回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>		No.9			目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学間連携による開講科目数: 1科目以上	1科目	2科目	3科目	3科目	2科目	2科目	ケアリングアイランドコンソーシアム会議: 対面会議 2回	3回	3回	6回	3回	2回	5回	ケアリングアイランドコンソーシアム会議: テレビ会議 2回以上	2回
No.9	目標実績																																				
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																															
大学間連携による開講科目数: 1科目以上	1科目	2科目	3科目	3科目	2科目	2科目																															
ケアリングアイランドコンソーシアム会議: 対面会議 2回	3回	3回	6回	3回	2回	5回																															
ケアリングアイランドコンソーシアム会議: テレビ会議 2回以上	2回	2回	2回	0回	5回	4回																															

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																									
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																							
3 教育効果を検証するシステムの構築 十分な教育と厳格な成績評価を行い、確実な知識と技術を身につけた専門職業人を育成する。その教育効果を検証するための評価システムを構築する	1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的実施(前期、後期)とその結果に基づきFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1-1【平成29年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価等に関するFDセミナーを開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価を実施した(前期・後期分)。 ○授業改善目標の設定については、教務・共通教育部会において連携して行った。授業評価アンケートの対応プランに関し意見を求めた。 ○授業評価等に関するFDセミナーを実施した。(1月31日) ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施した。(1月31日) ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :1回 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率92.5% ※授業評価アンケート回収率=(各科目の回収数合計)÷(各科目の履修登録者数合計)	B				10																								
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○学生による授業評価を実施した。 ○学生による授業評価を徴収するため、学生座談会を実施した。 ○授業評価アンケートの内容を見直した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○学生による授業評価を実施した(前期・後期分)。 ○授業改善目標の設定については、教務・共通教育部会に授業評価アンケートの対応プランに関し意見を求めるなど連携を行った。 ○授業評価等に関するFDセミナーを実施した。 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会を実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 940 2142 1092"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.10</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業評価結果を反映したFDセミナー開催:年1回以上</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>授業評価の回収率:各授業科目の回収率70%以上</td> <td>82.4%</td> <td>84.9%</td> <td>86.1%</td> <td>81.6%</td> <td>86.1%</td> <td>92.5%</td> </tr> </tbody> </table>	No.10	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	授業評価結果を反映したFDセミナー開催:年1回以上	1回	2回	1回	1回	1回	1回	授業評価の回収率:各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%	86.1%	81.6%	86.1%	92.5%	B ↓ A		【高く評価する点】 ・目標をすべて達成し、学生による授業評価の回収率を大幅に上げることができた。 【実施(達成)できなかった点】
No.10	目 標 実 績																																	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																												
授業評価結果を反映したFDセミナー開催:年1回以上	1回	2回	1回	1回	1回	1回																												
授業評価の回収率:各授業科目の回収率70%以上	82.4%	84.9%	86.1%	81.6%	86.1%	92.5%																												

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※3 教育効果を検証するシステムの構築の続き	2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。 ○数値目標 ・アンケート内容の見直し :年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数) :95%以上 ・国家試験合格率 看護師 :98%以上 保健師 :90%以上 助産師 :90%以上 社会福祉士 :70%以上 精神保健福祉士 :70%以上	2-1 【平成29年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価システムの改善策を検討する。 ＜人間社会学部＞ ○卒業生の就職先からの評価を把握するため、就職先アンケートを実施する。 ○卒業生の実態を把握するため、卒業生アンケートを実施する。 ＜看護学部＞ ○就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、適切な対応を行う。 ・就職・進学に関する情報提供を行い、面接および指導を行う。 ・国家試験対策として、模試の実施・補講・個別指導を実施する。 ○達成目標 ・アンケート内容の見直し :年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数) :95%以上 ・国家試験合格率 看護師 :98%以上 保健師 :90%以上 社会福祉士 :70%以上 精神保健福祉士 :70%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価に用いるアンケートの項目及び対象の見直しを行った。 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケートを実施し、集計・分析を行った(対象:平成27年4月入職の事業所のうち送付先が判明している事業所、送付数176、回答数89、回収率50.6%、※両学部を合わせた数値)。 ○卒業生アンケートを実施し、集計・分析を行った(対象:平成27年3月卒の卒業生のうち送付先が判明している方、送付数:151、回答数:14、回収率:9.3%)。 ＜看護学部＞ ○病院就職説明会(4月19日)で就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した(対象:説明会参加病院、配付数67、回答数63、回収率94%)。 進路・生活支援部会にて就職先アンケートの内容を見直し、調査の実施、集計・分析を行った。 (対象:平成27年4月入職の事業所のうち送付先が判明している事業所、送付数:176、回収数:89、回収率:50.6% ※両学部を合わせた数値) ○進路・生活支援部会にて卒業生アンケートの内容を見直し、調査の実施、集計・分析を行った。 (対象:平成27年3月卒の卒業生のうち送付先が判明している方、送付数:63、回収数:11、回収率:17.5%) ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、適切な対応を行った。 ・病院・施設の情報をメール・展示で提供し、就職相談を随時実施した。 ・看護師国家試験対策(模試、対策講座の開講等)を実施した。 ○目標実績 ・アンケート内容の見直し :1回 ・就職率(就職者数/就職希望者数) :97.9% (人間社会学部96.7%、看護学部100.0%) ・国家試験合格率 看護師 :100.0% 保健師 :100.0% 社会福祉士 :66.7% 精神保健福祉士 :88.2% (助産師については、課程の大学院移行のため平成27年度以降受験者なし)	A	【高く評価する点】 ・看護師および保健師国家試験合格率100.0%、看護学部就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。 【実施(達成)できなかった点】 ・社会福祉士の国家試験合格率(66.7%)が目標値(70%)を若干下回ったが、国家試験対策の強化を図り、合格率を4%上げることができた。今後も、さらに対策の強化を進めていきたい。	No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」	11	
					1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○就職先アンケートを実施してきた(両学部)。 ○卒業生アンケートを平成26年度から実施してきた(両学部)。 ○アウトカム評価システムを構築し、評価の実施と改善を行ってきた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○就職先アンケートを実施した(両学部)。 ○卒業生アンケートを実施した(両学部)。 ○アウトカム評価システムを構築し、システムの充実を図った。 ○目標実績 No.11	A ↓ A	【高く評価する点】 ・期間中のすべての年度で就職率が目標値を上回った。 ・国家試験合格率では、保健師、助産師、精神保健福祉士が常に目標値を上回り、看護師、社会福祉士は6年間平均で目標値を上回った。 【実施(達成)できなかった点】	

No.11	目 標 実 績						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値
アンケート内容の見直し:年1回以上	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
就職率:95%以上	97.3%	98.0%	97.8%	98.6%	99.1%	97.9%	98.1%
国家試験合格率:看護師 98%以上	98.6%	97.6%	98.7%	100.0%	95.2%	100.0%	98.4%
国家試験合格率:保健師 90%以上	96.3%	93.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	98.4%
国家試験合格率:助産師 90%以上	100.0%	100.0%	100.0%	受験者なし	(75.0%)	(100.0%)	(95.0%)
国家試験合格率:社会福祉士 70%以上	70.4%	70.6%	78.9%	73.1%	62.7%	66.7%	70.4%
国家試験合格率:精神保健福祉士 70%以上	88.0%	100.0%	88.5%	95.0%	100.0%	88.2%	93.3%

(助産師については、平成27年度以降、課程が大学院へ移行)

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																															
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 ：教員間の授業参観を実施年1回以上	1-1 【平成29年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観を実施し、授業参観実施による相互の教育改善効果を検証する。 ○公開授業の実施および課題の抽出 ○教員の授業自己評価プランの策定・実施 ○達成目標 ・FDセミナー等教員参加率：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上80% ・教員間の授業参観：年1回以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナーを5回実施した。参加者数は、合計106名(教員全体98.2%)であった。授業改善の活用について検証した。 ○後期に授業参観ウィークを導入し、教員間の授業参観を実施した(科目数：7科目、参加教員数：9名)。 ○11月29日の図書館セミナーにて、昨年度のベストティーチャーによる授業参観・公開授業を実施した。 ○平成28年度前・後期分と平成29年度前期分の授業評価アンケート結果について各教員が「授業自己評価・対応プラン」を作成した(平成28年度後期：99科目・教員数28名、平成29年度前期：80科目・教員数36名)。対応プランは掲示し学生に公開した。 ○目標実績 ・FDセミナー等教員参加率：98.2%(健康上等による理由で参加困難な教員を含める) ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞：両学部の常勤教員の全教科においてC以上90.6% ・教員間の授業参観：7回 【新たな取り組み】 ・授業参観ウィークを実施し、教員間による教育改善に繋がった。	A	【高く評価する点】 ・授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開した。 ・授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。 【実施(達成)できなかった点】	No.10 「FD」	12																																	
				1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○教員間の授業参観の仕組みを整え、授業参観を実施した。 ○公開授業を実施し、地域の学校教員等からの参加を得た。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○FDセミナーを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証した。 ○全学一斉に授業参観ウィークを設定し、教員間で授業参観を行う機会を設け、相互の教育改善効果を検証した。 ○公開授業を実施し、参加者からも意見を聞き、課題の抽出を行った。 ○教員の授業自己評価・対応プランを掲示し、学生に公開した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.12</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD活動等への教員参加率：100%</td> <td>84.4%</td> <td>95.1%</td> <td>94.9%</td> <td>85.2%</td> <td>89.3%</td> <td>98.2%</td> </tr> <tr> <td>学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%</td> <td>90.0%</td> <td>91.2%</td> <td>90.8%</td> <td>89.5%</td> <td>90.9%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>教員間の授業参観システム実施：年1回以上</td> <td>0回</td> <td>1回</td> <td>延べ16回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> </tr> </tbody> </table>	No.12	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%	89.3%	98.2%	学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%	90.9%	90.6%	教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回	4回	7回	B ↓ A	【高く評価する点】 ・授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開した。 ・授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。 【実施(達成)できなかった点】
No.12	目標実績																																									
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																				
FD活動等への教員参加率：100%	84.4%	95.1%	94.9%	85.2%	89.3%	98.2%																																				
学生の成績：両学部の常勤教員の全科目 C以上80%	90.0%	91.2%	90.8%	89.5%	90.9%	90.6%																																				
教員間の授業参観システム実施：年1回以上	0回	1回	延べ16回	5回	4回	7回																																				

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																								
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																						
※4 教員の教育能力の向上の続き	1 ※【教員のFD活動の推進】の続き	1-2	<p>【平成29年度計画】</p> <p>【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞</p> <p>○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催 □学外の講師によるFDセミナーの開催 □学外で開催されるFDセミナーへの参加 ・大学院生へのアンケート実施 カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催</p> <p>○達成目標 ・大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95% ・大学院生の満足度:「中」以上:75%</p>	1	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞</p> <p>○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議を開催した。(看護学専攻:12月13日、社会福祉専攻・心理臨床専攻・子ども教育専攻:12月20日) □学外の講師によるFDセミナーは、北海道大学から講師を招聘し、12月13日に開催した。 □学外で開催されるFDセミナーへの参加は、日本教育工学会主催のFD研修会(3月5日、東京工業大学大岡山キャンパス)に参加した。 ・大学院生へのアンケート実施は、10月に配布・回収し、結果の集計を終えた。 ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議を12月6日に開催した。</p> <p>○達成目標 大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95.5%(67名中64名) 大学院生の満足度:「中」以上:94.7%(19名中18名)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		13																								
		1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○大学院FD活動の推進として、毎年度各専攻によるFD研修会議、学外講師によるFDセミナーを開催した。また、学外で開催されるFDセミナーへ参加した。大学院教員の大学院FD研修会への参加(1回以上)は95%以上を達成した。</p> <p>○大学院生へのアンケートを実施し、カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を尋ねた結果、満足度「中」以上は75%以上を達成した。また、アンケート結果をもとに大学院生参画によるFD会議を開催した。</p> <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○大学院FD活動の推進として、毎年度各専攻によるFD研修会議、学外講師によるFDセミナーを開催した。また、学外で開催されるFDセミナーへ参加した。大学院教員の大学院FD研修会への参加(1回以上)は95%以上を達成した。</p> <p>○大学院生へのアンケートを実施し、カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を尋ねた結果、満足度「中」以上は75%以上を達成した。また、アンケート結果をもとに大学院生参画によるFD会議を開催した。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.13</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院教員のFD研修会参加: 1回以上の教員:95%</td> <td>94.5%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>98.2%</td> <td>100.0%</td> <td>95.5%</td> </tr> <tr> <td>大学院生の満足度:「中」以上 75%</td> <td>97.1%</td> <td>96.6%</td> <td>96.2%</td> <td>100.0%</td> <td>96.2%</td> <td>94.7%</td> </tr> </tbody> </table>	No.13	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学院教員のFD研修会参加: 1回以上の教員:95%	94.5%	100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	95.5%	大学院生の満足度:「中」以上 75%	97.1%	96.6%	96.2%	100.0%	96.2%	94.7%	1	B ↓ B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>
No.13	目標実績																																
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																											
大学院教員のFD研修会参加: 1回以上の教員:95%	94.5%	100.0%	100.0%	98.2%	100.0%	95.5%																											
大学院生の満足度:「中」以上 75%	97.1%	96.6%	96.2%	100.0%	96.2%	94.7%																											

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																										
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																								
※4 教員の教育能力の向上の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数 ：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数 ：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数 ：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数 ：年に1回以上	2-1	1	【平成29年度の実施状況】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○社会福祉士養成校協会は、組織変更により、日本ソーシャルワーク教育学校連盟に統合されることになった。本学は運営委員校として、9月9日の運営委員会に出席、2月16日、17日の九州ブロック研究大会には5名の教員が参加した。 ○ブラッシュアップセミナーは、4月28日、ドイツから講師を招き「NRWカトリック大学のソーシャルワーク教育プログラム」をテーマに実施した。参加者12名。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行った。 ・臨床との共同研究を実施（5件の共同研究を継続中）。 ・教員と臨床教授等の合同研修会を実施した(9月12日)。 ・ブラッシュアップのためのセミナーを開催した(9月12日)。 ・実習に関する他大学との合同研修会(8月7日)、FD等を実施した(2月2日)。 ○目標実績 ・臨床との共同研究 :5件 ・他大学との合同研修会、FD等を実施 : 2回 ・教員・指導者講習会実施数 :2回 ・教員の臨床継続教育者数 :1人	A	【高く評価する点】 ・昨年に引き続きドイツにおける専門職養成教育についての研修を実施した。28年度は施設長の立場から、29年度は大学の立場からソーシャルワーカー等の専門職教育のプログラムを報告してもらい、意見交換することができた。英米の情報に偏る傾向の中で、ドイツの専門職養成教育を学ぶ意味は大きい。 【実施(達成)できなかった点】	14																																												
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○社会福祉コースが中心となり、社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として毎年開催される研修会と研究大会に参加した。 ○平成24年度と25年度は、ブラッシュ・アップセミナーの検討期間であり、平成26年度から事業を開始した。平成26年度は、フィリピンのNPO団体の長を招き、ストリートチルドレン救済のための包括的な支援プログラムについて研修した。平成27年度は、元教員を招き、「親が離婚した子どもの面会交流を考える」をテーマに研修を実施した。 ＜看護学部＞ ○看護学部と臨床との看護ユニフィケーション構築に関しては実習調整会議や研究会などを通して実施した。 ○大学と臨床現場との看護実践・教育・研究の有機的に連携に関しても、研修会や研究指導などを実施して指導者の教育指導力向上に寄与した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜人間社会学部＞ ○社会福祉コースが中心となり、社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として研修会と研究大会(約100名)に参加し、分科会で報告を行うなどしてきた。(平成24～27年も同様の取組をしてきた。) ○ブラッシュアップセミナーは、平成28年度は、ドイツの児童福祉施設長を招き「ドイツの児童福祉と専門職養成教育について」をテーマに、平成29年度は、ドイツの大学講師を招き「NRWカトリック大学のソーシャルワーク教育プログラム」をテーマに実施した。それぞれ10名程度が参加した。 ＜看護学部＞ ○臨床との連携を強化しながら、さらなる実習教育の充実を図るために、実習調整会議や研修会の内容を検討、実施した。 ○大学と臨床現場との看護実践・教育・研究の有機的な連携に関しても、研修会や研究指導などを実施して指導者の教育指導力向上に寄与した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1528 2151 1722"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.14</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成目標数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床との共同研究：年1件以上</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>16件</td> <td>6件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>教員・指導者講習会実施数：年に1回以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>教員の臨床継続教育者数：年に1人以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>他大学との合同研修会、FD等：年1回以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>		No.14		目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	達成目標数値							臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件	5件	5件	教員・指導者講習会実施数：年に1回以上					1回	2回	教員の臨床継続教育者数：年に1人以上					1人	1人	他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回	2回
No.14	目標実績																																																		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																													
達成目標数値																																																			
臨床との共同研究：年1件以上	5件	6件	16件	6件	5件	5件																																													
教員・指導者講習会実施数：年に1回以上					1回	2回																																													
教員の臨床継続教育者数：年に1人以上					1人	1人																																													
他大学との合同研修会、FD等：年1回以上				1回	2回	2回																																													

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																																															
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																																													
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標になかった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定めた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 :社会福祉学科 6.0倍以上 :人間形成学科 7.5倍以上 :看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、良好評価75%以上	1-1【平成29年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組を行う。 ・高大接続改革に対応する学部入試の見直し作業 ・英語検定試験の推薦入試での活用開始(看護学部) ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績や進路などの関連に関する分析をもとにした、現行の入試方法における課題抽出作業 ・「高大連携に関する情報交換会」及び「高校生向けサマーセミナー」実施 <大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について取り組む。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):25%以下 ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員):大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上		1	【平成29年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組を行う。 ・高大接続改革に対応する学部入試の方針を決定した。 ・英語検定試験の看護学部・推薦入試での活用を開始した。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績や進路などの関連に関する分析をもとにした、現行の入試方法における課題抽出作業を実施した。 ・「高大連携に関する情報交換会」及び「高校生向けサマーセミナー」を秋のオープンキャンパスと同時開催した。それに伴い、「高校生向けサマーセミナー」は「オータムスクール」に名称を変更した。 「高大連携に関する情報交換会」参加者:高校教諭4校6名 「オータムスクール」参加者:人間社会学部スクール10名、看護学部スクール18名 <大学院> ○大学院入試部会を6回開催(4月26日、5月17日、10月11日、11月19日、1月24日、2月7日)し、現状分析及びアドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○両研究科とも、オープンキャンパスの相談コーナーで入試説明を行った。 ○目標実績 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(5.5倍)、社福(4.3倍)、形成(7.4倍)、看護(6.1倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):18.5%(61人/329人) ・大学院における充足率 :100% ・出前講義数及びアンケート :22回、良好評価 99.5%		B	【高く評価する点】 <学部> ・両学部における辞退率が低下した。 <大学院> ・充足率が100%となった。 【実施(達成)できなかった点】 <学部> ・一般入試の志願倍率が、公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科において、目標に達しなかった。 No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」		15																																																																														
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 <学部> ○高大接続改革へ向けて、学部入試全般の見直しを開始した。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について毎年分析する仕組みを構築した。 ○新たな高大連携事業として、「高大連携に関する情報交換会」でのニーズ把握を踏まえて、「高校生向けサマーセミナー」を開始した。 <大学院> ○大学院入試部会にて定員充足に関する課題を分析し、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保に取り組んだ。 ○大学院入試説明会を学内及び学外にて継続して実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 <学部> ○高大接続改革に対応する学部入試の方針案を策定した。 ○入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析した。 ○英語検定試験の看護学部・推薦入試での活用を開始した。 ○新たな高大連携事業である「高大連携に関する情報交換会」、「高校生向けサマーセミナー」を継続して実施した。 <大学院> ○オープンキャンパスで大学院志望者の相談を実施すると同時に、大学院大学院入試部会で現状分析及びアドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.15</th> <th colspan="7">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般入試の志願倍率: 公共社会 6.5倍以上</td> <td>11.1倍</td> <td>4.0倍</td> <td>8.6倍</td> <td>7.4倍</td> <td>7.0倍</td> <td>5.5倍</td> <td>7.3倍</td> </tr> <tr> <td>": 社会福祉 6.0倍以上</td> <td>6.3倍</td> <td>4.8倍</td> <td>7.2倍</td> <td>6.6倍</td> <td>6.1倍</td> <td>4.3倍</td> <td>5.9倍</td> </tr> <tr> <td>": 人間形成 7.5倍以上</td> <td>9.0倍</td> <td>9.6倍</td> <td>8.1倍</td> <td>9.3倍</td> <td>6.7倍</td> <td>7.4倍</td> <td>8.4倍</td> </tr> <tr> <td>": 看護学科 5.5倍以上</td> <td>6.0倍</td> <td>5.1倍</td> <td>5.7倍</td> <td>5.9倍</td> <td>5.6倍</td> <td>6.1倍</td> <td>5.7倍</td> </tr> <tr> <td>両学部における辞退率: 25%以下</td> <td>24.5%</td> <td>24.8%</td> <td>20.9%</td> <td>21.5%</td> <td>19.5%</td> <td>18.5%</td> <td>21.6%</td> </tr> <tr> <td>大学院における充足率: 100%</td> <td>66.7%</td> <td>66.7%</td> <td>81.5%</td> <td>87.5%</td> <td>85.2%</td> <td>100.0%</td> <td>81.3%</td> </tr> <tr> <td>出前講義: 20回以上</td> <td>30回</td> <td>26回</td> <td>31回</td> <td>25回</td> <td>24回</td> <td>22回</td> <td>26回</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>90.5%</td> <td>98.9%</td> <td>94.5%</td> <td>97.9%</td> <td>98.9%</td> <td>99.5%</td> <td>97.5%</td> </tr> </tbody> </table>	No.15	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値	一般入試の志願倍率: 公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍	7.0倍	5.5倍	7.3倍	": 社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍	6.1倍	4.3倍	5.9倍	": 人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍	6.7倍	7.4倍	8.4倍	": 看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍	5.6倍	6.1倍	5.7倍	両学部における辞退率: 25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%	19.5%	18.5%	21.6%	大学院における充足率: 100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%	85.2%	100.0%	81.3%	出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回	26回	同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%	97.5%		B ↓ A	【高く評価する点】 <学部> ・両学部の辞退率が低下した。 ・英語検定試験の入試での活用を開始した。 <大学院> ・入試説明会やオープンキャンパスでの相談など広報の改善を行い、充足率100%を達成した。 【実施(達成)できなかった点】
No.15	目 標 実 績																																																																																							
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																																																																	
一般入試の志願倍率: 公共社会 6.5倍以上	11.1倍	4.0倍	8.6倍	7.4倍	7.0倍	5.5倍	7.3倍																																																																																	
": 社会福祉 6.0倍以上	6.3倍	4.8倍	7.2倍	6.6倍	6.1倍	4.3倍	5.9倍																																																																																	
": 人間形成 7.5倍以上	9.0倍	9.6倍	8.1倍	9.3倍	6.7倍	7.4倍	8.4倍																																																																																	
": 看護学科 5.5倍以上	6.0倍	5.1倍	5.7倍	5.9倍	5.6倍	6.1倍	5.7倍																																																																																	
両学部における辞退率: 25%以下	24.5%	24.8%	20.9%	21.5%	19.5%	18.5%	21.6%																																																																																	
大学院における充足率: 100%	66.7%	66.7%	81.5%	87.5%	85.2%	100.0%	81.3%																																																																																	
出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回	26回																																																																																	
同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%	97.5%																																																																																	

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																				
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																		
※5 優秀な学生の確保の続き	2【積極的な広報活動】 ①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。 ○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上	2-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【積極的な広報活動】 ○ 広報活動を改善する。 ・夏のオープンキャンパス、秋のオープンキャンパス、夢ナビライブ2017福岡会場で、本学Facebookページ・入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」をPRした。フォロワー92名、投稿ごとの最高リーチ数551名 ・広報への動画活用方針を決定した。 ○目標実績 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1724名、良好評価 99.5% ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価 100% ・訪問高校数及びアンケート :40校、良好評価 98.5%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.3 「高校訪問」 No.4 「入試説明会」 No.5 「出前講義」 No.6 「オープンキャンパス」	16	16																																																			
		1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施した。 ○スマートフォン用ホームページ(入試情報)の運用を開始した。 ○広報活動の新しい取組として、大学入試資料請求サイトにバナー広告の掲載を開始した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○従来からの手法による広報活動を継続的に改善しながら実施した。 ○SNSによる広報活動手法を確立した。 ○スマートフォン用ホームページ(入試情報)を充実させた。 ○目標実績 No.16 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス参加者数: 1000名以上</td> <td>1,195</td> <td>1,702</td> <td>1,402</td> <td>1,792</td> <td>1,711</td> <td>1,724</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>95.9%</td> <td>96.3%</td> <td>95.5%</td> <td>93.5%</td> <td>96.0%</td> <td>99.5%</td> </tr> <tr> <td>入試説明会: 10会場</td> <td>15会場</td> <td>11会場</td> <td>11会場</td> <td>10会場</td> <td>10会場</td> <td>10会場</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>100.0%</td> <td>98.7%</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問高校数: 30校</td> <td>27校</td> <td>37校</td> <td>32校</td> <td>30校</td> <td>30校</td> <td>40校</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>91.4%</td> <td>96.6%</td> <td>97.8%</td> <td>96.7%</td> <td>98.8%</td> <td>98.5%</td> </tr> </tbody> </table>							目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	オープンキャンパス参加者数: 1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792	1,711	1,724	同 アンケート: 良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%	96.0%	99.5%	入試説明会: 10会場	15会場	11会場	11会場	10会場	10会場	10会場	同 アンケート: 良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	訪問高校数: 30校	27校	37校	32校	30校	30校	40校	同 アンケート: 良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%
	目標実績																																																												
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																							
オープンキャンパス参加者数: 1000名以上	1,195	1,702	1,402	1,792	1,711	1,724																																																							
同 アンケート: 良好評価75%以上	95.9%	96.3%	95.5%	93.5%	96.0%	99.5%																																																							
入試説明会: 10会場	15会場	11会場	11会場	10会場	10会場	10会場																																																							
同 アンケート: 良好評価75%以上	100.0%	98.7%	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%																																																							
訪問高校数: 30校	27校	37校	32校	30校	30校	40校																																																							
同 アンケート: 良好評価75%以上	91.4%	96.6%	97.8%	96.7%	98.8%	98.5%																																																							

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																			
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																	
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。	1-1【平成29年度計画】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと教員の情報の共有化を図る。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1年次から2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定を、正規の授業として実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過についてキャリア形成支援を実施する。 ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施：表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 ：利用者実数：150人以上、延べ900件以上	2	【平成29年度の実施状況】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターの個別相談は、学生の就職活動繁忙期を予測し、効率的な相談室の運営を行った。また、進路・生活支援部会にオブザーバーとして相談室カウンセラーが出席し、状況報告等を行うことで教員との情報共有を行った。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座に関しては、キャリア形成支援講座を1年生・2年生向けに実施した。3年生に対しては、インターンシップや筑豊地域企業等見学バスツアーを実施した。 ○1・2年次のプレ・インターンシップの充実及び3年次以降のインターンシップにつなぐことに関しては、平成29年度夏季プレ・インターンシップを51名が履修した(平成28年度26名、平成27年度27名)。また夏季インターンシップには16名が参加し、うち6名がプレ・インターンシップ履修者であった。春季インターンシップには5名が参加した。うち1名がプレ・インターンシップ履修者であった。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定については、プレ・インターンシップで実施した。 ○未就職や離職・転職した卒業生がキャリアサポートセンターを利用できるようにするなどキャリア形成支援を行った。 ○優秀学生の表彰を卒業時に行い、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援として、平成28年度後期・平成29年度前期のGPAが2.0以下の学生を特定し、人間社会学部全学科、看護学部看護学科で面接指導を実施した。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」の実施については、「プレ・インターンシップ」単位取得者7名がインターンシップに取り組み、課題を検討した。 ○目標実績 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート：良好評価 100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価 87.5% ・GPA制度の活用状況調査：GPA2.0未満の学生面接率 100%(平成28年度後期・平成29年度前期) ・表彰制度の実施：1回 ・キャリアサポートセンター利用数：利用者実数：208名、延べ952件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17																																																				
		○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 ：表彰の実施(年1回)							【平成24～27年度の実施状況概略】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するため、カウンセラーと学生支援班とで検討会を実施してきた。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座として、1年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅰ・Ⅱ、2年次生対象のキャリア形成支援講座Ⅲ、3年次生対象の就職ガイダンス等を実施してきた。 ○1・2年次生対象の「プレ・インターンシップ」を充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげてきた。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した「プレ・インターンシップ」(正課科目)を実施してきた。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行ってきた。 ○優秀学生の表彰の実施、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施してきた。 ○平成27年度に全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を試行し、課題を検討した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○キャリアサポートセンターの個別相談機能強化として就職活動の流れを予測し効率的な相談室の運営を行った。また、センターと教員との情報の共有化のために進路・生活支援部会に相談室カウンセラーが出席した。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座として、1・2年次はキャリア形成支援講座を、3年次は夏季インターンシップや企業等見学バスツアーを実施した。 ○1・2年次対象に充実したプレ・インターンシップを実施し、3年次以降のインターンシップに繋げた。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定をプレ・インターンシップで実施した。 ○未就職や離職・転職した卒業生に対して継続的なキャリア支援を行った。 ○優秀学生の表彰を実施し、GPAの低い学生に対して面接指導を行った。 ○全学横断型プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討した。 ○目標実績 No.17 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上</td> <td>83.9%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上</td> <td>99.4%</td> <td>98.7%</td> <td>80.7%</td> <td>81.7%</td> <td>93.1%</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>GPA2.0未満の学生面接率：100%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>99.2%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>学生表彰の実施：年1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>キャリアサポートセンター利用者数：実数150人以上</td> <td>228</td> <td>261</td> <td>203</td> <td>201</td> <td>187</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>同</td> <td>1,093</td> <td>1,102</td> <td>889</td> <td>878</td> <td>829</td> <td>952</td> </tr> </tbody> </table>		目標実績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	プレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%	93.1%	87.5%	GPA2.0未満の学生面接率：100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%	学生表彰の実施：年1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	キャリアサポートセンター利用者数：実数150人以上	228	261	203	201	187	208	同	1,093
	目標実績																																																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																						
プレインターンシップ・インターンシップ学生アンケート：良好評価75%以上	83.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																																																						
キャリア形成支援講座参加者アンケート：良好評価75%以上	99.4%	98.7%	80.7%	81.7%	93.1%	87.5%																																																						
GPA2.0未満の学生面接率：100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%																																																						
学生表彰の実施：年1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回																																																						
キャリアサポートセンター利用者数：実数150人以上	228	261	203	201	187	208																																																						
同	1,093	1,102	889	878	829	952																																																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※6 学生支援の充実の続き	2【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議 2回以上/年	2-1 【平成29年度計画】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年、 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議年2回	1	1	【平成29年度の実施状況】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の体制づくりとして、9大学から14人の教職員が学生コンソーシアム担当者として支援を行った。本学からは2名の教員が担当した。 ○学生コンソーシアム会議を10回開催した。 ○学生フェスティバルの開催 11月11日に福岡女学院看護大学にて「かんたま祭(学生フェスティバル)」開催、ナーシング・キャリアカフェも同日開催した。県立大学より10名が参加。学生フェスティバルにおいては圏域を超えた交流を継続して行った。 ○大学コンソーシアム合同短期災害看護領域研修の中で学生の討議の時間を設け、学びの共有や大学を超えた交流が行われた。 ○目標実績 ・学生フェスティバルの開催:1回開催、学生参加数 県立大学から10名参加 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議10回開催	A	【高く評価する点】 ・学生フェスティバルにおいては圏域を超えた交流が行われている。 ・ナーシング・キャリアカフェと合同短期研修を共同教育推進事業からの継続事業として展開支援し、大学を超えた学生間のみならず卒業生等との交流が図られている。 【実施(達成)できなかった点】		18	
					【平成24～27年度の実施状況概略】 ○本学が代表となり、12大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築した。 ○学生コンソーシアムを構築し、活発な学生間交流をおこなうことができた。 ○学生フェスティバルを毎年開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○本学が代表を継続し、9大学連携のもとケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアムを構築し学生支援を行った。 ○学生コンソーシアムを構築し、圏域を超えた活発な学生間交流を行うことができた。 ○学生フェスティバルを毎年開催した。また、ナーシング・キャリアカフェを共同教育推進事業から引き継ぎ開催した。 ○大学コンソーシアム合同短期災害看護領域研修の中で学生の討議の時間を設け、学びの共有や大学を超えた交流が行われた。 ○目標実績					A ↓ A

No.18	目標実績					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29
学生フェスティバルの開催: 年1回	2回	1回	1回	1回	1回	1回
同 県立大学からの参加: 20名以上	15名	5名	延べ24名	延べ23名	21名	10名
学生コンソーシアム会議の開催: 対面会議年2回以上	9回	13回	12回	8回	7回	10回

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																										
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																								
※6 学生支援の充実の続き	3【大学院生支援の充実】 ①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用を検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上/年	3-1 【平成29年度計画】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 <心理臨床専攻> ・アンケートを実施し、その結果に基づいて検討する。 <社会福祉専攻> ・履修相談の体制を確立し、土日祝日開講を実施する。 ・研究指導及び相談体制を強化するため、すべての学生に副指導教員をつける。 <看護学研究科> ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向け継続し検討する。 ・前年度の検討結果も踏まえ、具体案を作成する。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件以上 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 <心理臨床専攻> ・昨年度修了生に対するアンケートでは、改善点の指摘はなかった。在学生に対するアンケートに基づき、中間発表会の助言体制を充実させることを確認した。 <社会福祉専攻> ・前期及び後期の授業開始前に各学生と履修相談を行い、授業の土日祝日開講を実施した。 ・在籍するすべての学生について副指導教員を決定し、指導・相談体制の強化を図った。 <看護学研究科> ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し体制を整えた。また、大学院生からの要望に応えられるよう学年代表学生を選出して連絡・相談体制を強化した。修士論文作成・発表会が効果的に実施できるよう院生室のPC環境を改善した。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向け検討を行った。 ・前年度の検討結果も踏まえ、具体案を検討した。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件 【新たな取り組み】 ・大学院の広報紙を作成し、関係方面に配付した。 ・看護学研究科の修了生、在学生のネットワークを組織化した。	B	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		19																									
			1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 <人間社会学研究科> ○継続的な学生からの面接やアンケートにより学習や研究環境への要望を聞き取る相談体制を構築するとともに、土日祝日開講導入などにより聞き取った学生のニーズに対応する具体的な対応策を講じた。 <看護学研究科> ○連絡体制の整備(休講や災害時・緊急時の連絡方法など)を図るとともに、学習環境の整備として、院生講義室と研究室の整備(机、椅子、ロッカーの補充)、視聴覚教材の整備、パソコン機器の再整備等、学生の要望を取り入れた整備を実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 <人間社会学研究科> ○継続的にアンケート調査を行い対応を図った。土日の開講の実施や副指導教員の設置を行い、支援を充実させた。 <看護学研究科> ○大学院生への相談体制を整えた。 ・大学院生からの要望は、学部内(学務部会、FD部会)の連携により体制を整えることができた。 また、修士論文の作成過程に必要な院生室のPC等の環境整備を行った。 ・卒業生を対象とした、大学院入学金減免措置について検討を行った。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1231 1312 2151 1459"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.19</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>助成金の実施: 年1件以上</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>国内学会参加費補助制度の活用件数: 年1件以上</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>/</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table>	No.19	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	助成金の実施: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件	国内学会参加費補助制度の活用件数: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件	B ↓ B	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.19	目標実績																																		
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																													
助成金の実施: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件																													
国内学会参加費補助制度の活用件数: 年1件以上	/	/	/	3件	1件	1件																													

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																				
7 学習環境の充実 学部長及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率	1-1【平成29年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進する。 ・教員向け講習会の実施 ○コース開設数調査の実施 ○学生の利用率調査の実施 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数 :100コース ・学生の利用率 :70%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進した。 ・教員向け講習会を2回実施した。(6月7日 参加者50名、10月4日 参加者29名) eラーニングシステムをスマートフォンに対応させた。 ○コース開設数調査の実施 前期・後期合計 122コース (人間社会学部 67、看護学部 55) ○学生の利用率調査の実施 年間利用率 全学 91% (人間社会学部 87%、看護学部 100%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数 :122コース ・学生の利用率 :91%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20																						
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催した。 ○学生に対してアンケート調査を行い、より活用しやすいシステムにするために、改変などの検討及び実施を行った。IT教育システムの充実を図るために、平成27年度には情報処理教室の機材の入れ替えを行い、新しいシステムで学習できる環境を提供した。また、少人数でも学習できる教室を情報処理教室3として整えた。 ○教員が開設するコース数は各年度で目標を達成した。 ○学生の利用率は各年度で目標を達成した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討し、教員に対して講習会を開催した。 ○平成28年度に学内LANシステムを更新し、無線LAN環境を改善した。また、学生の自主的学習を促すために、平成29年度にはeラーニングシステムをスマートフォンに対応させた。 ○教員が開設するコース数は各年度で目標を達成した。 ○学生の利用率は各年度で目標を達成した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1252 1073 2160 1220"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.20</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>e-ラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)</td> <td>87</td> <td>92</td> <td>119</td> <td>111</td> <td>115</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)</td> <td>74.3%</td> <td>82.3%</td> <td>88.0%</td> <td>87.0%</td> <td>86.5%</td> <td>91.0%</td> </tr> </tbody> </table>			No.20					目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	e-ラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)	87	92	119	111	115	122	学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)	74.3%	82.3%
No.20	目 標 実 績																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
e-ラーニングコース開設数: 100以上(H26年度以降)	87	92	119	111	115	122																									
学生の利用率: 70%以上(H26年度以降)	74.3%	82.3%	88.0%	87.0%	86.5%	91.0%																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																				
※7 学習環境の充実の続き	2【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度 : 参加した社会人のアンケート調査における良好評価 70%以上	2-1 【平成29年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備 ・eラーニングをより良く活用するための検討 ○研究生制度の見直し ＜看護学研究科＞ ・福岡県立大学大学院研究生規則第2条の「研究生の資格」の基準の検討。 ○達成目標 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数、2件以上 ・ビズコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上70%	1	1	【平成29年度の実施状況】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出は、看護学研究科の2科目で実施(アドバンス生理学・病態生理学)。レポートの学生間でのWEB公開を人間社会学研究科の4科目で実施した。 ・eラーニングをより良く活用するため検討を行った。 ○研究生制度の見直し ・福岡県立大学大学院研究生規則第2条の「研究生の資格」の基準について検討した。 ＜看護学研究科＞ ○レポートのWEB提出は、看護学研究科の2科目で実施した(アドバンス生理学・病態生理学)。 ○研究生制度の見直し 福岡県立大学大学院研究生規則では、研究生の資格として「修士の資格を有する者」とあるが、現段階では制度の利用がない。研究生の資格として、学士の資格を有すると変更が必要である。 ○目標実績 ・eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数 : 6件 ・ビズコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上87.5%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21																						
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○社会人が学びやすい学習環境としてサテライト教室の整備充実を行った。 ○既修得単位認定システムの整備を行った。 ○指導システムとしてeラーニングの活用や主にCNSコースの修了後の研究指導を行った。 ○研究生制度の積極的活用に関しては見直しを行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜人間社会学研究科＞ ○eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの充実を図った。 ○研究生制度について、その積極的活用を図るため、「研究生の資格」基準について検討を行った。 ＜看護学研究科＞ ○IT環境の整備を行った。また、ビズコリ等のサテライトに対する満足度を調べて検討し、博多サテライト教室についての満足度を確認した。 ○福岡県立大学大学院研究生規則では、研究生の資格として「修士の資格を有する者」であり、研究生の資格の変更が必要である。 ○目標実績 No.21 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上</td> <td></td> <td></td> <td>4件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%</td> <td></td> <td>75.0%</td> <td></td> <td>80.0%</td> <td>66.7%</td> <td>87.5%</td> </tr> </tbody> </table>								目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上			4件	5件	6件	6件	博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%		75.0%
	目標実績																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																									
eラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック: 2件以上			4件	5件	6件	6件																									
博多サテライト(ビズコリ)授業参加者の全体満足度: 普通以上70%		75.0%		80.0%	66.7%	87.5%																									

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																				
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																		
※7 学習環境の充実の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	3-1	【平成29年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 ○ラーニング commons の利用とその促進 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	1	【平成29年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充のために、11月29日に図書館セミナーを開催した。 ○ラーニング commons の利用とその促進のために、11月29日には図書館セミナーを開催した。 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館を実施した。 ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録311件 ・ラーニング commons 利用者数 : 月409名(平均) ・開館延長時間内の利用者数 : 月371名(平均)	A	【高く評価する点】 ・図書館充実のために図書館セミナーを実施した。 ・機関リポジトリ登録件数が目標を大きく上回った。 【実施(達成)できなかった点】	No.11 「図書館」	22																																				
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○機関リポジトリについては、計画どおり平成26年度から導入した。 ○ラーニング commons については、計画より1年早い平成26年度に、看護学部分館に開設した。 ○平日の開館時間延長・日曜祝日開館は、看護学部分館において計画どおり実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○機関リポジトリWGを作り、研究情報公開の支援を行い、次期計画に向けて規則のあり方を検討した。 ○ラーニング commons WGを作り、図書館本館にはノートPC40台を設置した。 ○看護学部分館の開館時間を延長し、看護実習時の支援を行った。 ○平成28、29年度に選書ツアーを実施した。 ○目標実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.22</th> <th colspan="7">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機関リポジトリ登録件数: 新規登録数 年30件以上</td> <td></td> <td></td> <td>21件</td> <td>16件</td> <td>43件</td> <td>311件</td> <td>98件</td> </tr> <tr> <td>ラーニング commons 利用者数: 月300名以上</td> <td></td> <td></td> <td>259</td> <td>209</td> <td>311</td> <td>409</td> <td>297</td> </tr> <tr> <td>開館延長時間内の利用者数: 月200名以上</td> <td></td> <td>205</td> <td>202</td> <td>124</td> <td>322</td> <td>371</td> <td>245</td> </tr> </tbody> </table>		No.22			目標実績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値	機関リポジトリ登録件数: 新規登録数 年30件以上			21件	16件	43件	311件	98件	ラーニング commons 利用者数: 月300名以上			259	209	311	409	297	開館延長時間内の利用者数: 月200名以上		205	202	124	322
No.22	目標実績																																												
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																						
機関リポジトリ登録件数: 新規登録数 年30件以上			21件	16件	43件	311件	98件																																						
ラーニング commons 利用者数: 月300名以上			259	209	311	409	297																																						
開館延長時間内の利用者数: 月200名以上		205	202	124	322	371	245																																						
8 人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年を目前に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 ○達成目標 ・改革案の作成 : 平成25年度までに作成	1-1	【平成29年度計画】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進める。 ・年度末のゼミ選択に向け、卒論にいたるカリキュラムとして新設された保健福祉情報プログラムを学生に周知する。新任教員の意見等も反映しつつキャリア形成支援プログラムのカリキュラムを完成させるとともに、残る2全学横断型教育プログラム(援助力養成、国際交流)の充実を図る。	2	【平成29年度の実施状況】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進めた。 ・全学横断型教育プログラムのうち、卒論にいたるカリキュラムとして新設された保健福祉情報教育プログラムについては、学生への周知を行った。また同プログラムの追加により必要となった3年次からの新たなゼミ選択方式を決定した。その結果に基づき9名の学生が同プログラムを選択した。他の3プログラムについても充実化を検討し、キャリア形成支援プログラムについては卒論にいたるカリキュラム案を完成させた。	A	【高く評価する点】 ・全学横断型教育プログラムのうち保健福祉情報とキャリア形成支援の両プログラムについて卒論に至るカリキュラムを作成し、保健福祉情報教育プログラムではゼミを開設した。 【実施(達成)できなかった点】		23																																				
				2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成25年度に作成した学科制からコース制への改変と全学横断型教育プログラム開設に基づく改革案を、平成26、27年度に実施し、計画通りの体制を構築し、この改革に対応した人事採用やカリキュラム改変等を実行した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○全学横断型教育プログラムの充実が図られた。保健福祉情報教育プログラムは卒論にいたるゼミを開設し、プログラム強化の為に新規教員を採用、ゼミ選択方式を決定し、9名の学生を受け入れた。国際交流プログラムでは4年間で卒業可能な留学コースを設定した。援助力養成プログラムでは新たに「子供学習支援論」を開設した。キャリア形成支援プログラムについてはプログラム強化のための新規教員を採用し、カリキュラム案を完成させた。		A ↓ A			【高く評価する点】 ・全学横断型教育プログラムのうち保健福祉情報とキャリア形成支援の両プログラムについて卒論に至るカリキュラムを作成し、保健福祉情報教育プログラムではゼミを開設した。 【実施(達成)できなかった点】	中期 23																																		

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
9 両学部連携の 大学院博士課程 の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科統が連携した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1【平成29年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。	1	1	【平成29年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を第3期中期計画策定委員会等で検討した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			24
			1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○人間社会学部改革及び大学院修士課程再編を踏まえ、博士課程の新設について方向性を検討してきた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を改革推進会議等で検討した。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期	24
		ウェイト総計	中期 26	29年度 26			項目数計		中期 24	29年度 24

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項(平成29年度)

- (平成29年度)
- ①学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。
 - ②看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。
また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。
 - ③人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。
 - ④看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。
 - ⑤コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。
また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。
 - ⑥看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。
 - ⑦授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。
 - ⑧教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。
 - ⑨大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。
 - ⑩機関リポジトリの拡充、及びラーニングコンモンス利用促進のため、図書館セミナーを実施した。

教育に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

- (平成24年度)
- ①文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。
 - ②文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。
 - ③放送大学との連携協定を締結した。
 - ④ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セイフティ・ネットワーク(通称:CSN)」を構築し、展開するための協定を締結した。
- (平成26年度)
- ⑤両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。
全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。
 - ⑥情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。
- (平成27年度)
- ⑦文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組(8大学連携)が最高ランクのS評価を受けた。47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。
 - ⑧文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)の中間評価において、本学を代表とする取組(3大学連携)が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。
- (平成28年度)
- ⑨大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。
「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」
 - ⑩学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。
 - ⑪学生の主体的な勉学・研究をさらに促進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。
- (平成29年度)
- ⑫学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。
 - ⑬看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。
また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。
 - ⑭人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。
 - ⑮看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。
 - ⑯コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。
また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。
 - ⑰看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。
 - ⑱授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。
 - ⑲教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。
 - ⑳大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。
 - ㉑機関リポジトリの拡充、及びラーニングコンモンス利用促進のため、図書館セミナーを実施した。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

中期目標 2 研究		「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。																																																																																																																														
項目	実施事項	平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																																																																																							
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																																																																																					
1	地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1-1 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 : 3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 : 隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化 : シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 : 年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 : 年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 : 年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 : 3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) : 人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) : 人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 : 共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 : 共同研究応募件数 3件以上/年	1-1 【平成29年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 研究推進部及び3センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトについて検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討する。 ○産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討する。 ○協定校(大邱韓医科大学、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学)との研究者や学生、院生の交流促進について国際交流推進部と連携して検討する。 ○保健・医療・福祉分野の学際的共同研究活性化のため、国際シンポジウムを開催する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 : 3件以上/年 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) : 人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) : 人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 1回 ・保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化 : シンポジウムの開催 1回	2	2	【平成29年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 研究推進部及び3センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトとして、昨年度に引き続き研究推進部において地域教育課題、医療福祉情報の重点領域研究部門のプロジェクトを立ち上げ研究支援を実施した。 ○学際的研究プロジェクトの成果発表については、1月22日から26日まで成果報告会を実施した(3件)。 ○田川地域包括連携協定の協働事業について、自治体の状況把握と今後の活動方針について確認を行った。 ○協定校(大邱韓医科大学、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学)との研究者や学生、院生の交流促進について国際交流推進部と連携し、随時受け入れと派遣を行った。 ○保健・医療・福祉分野の学際的共同研究活性化のため、4月28日に国際シンポジウムを開催し、報告書を作成した。 テーマ「認知症の方とその家族への地域支援ー看護と福祉の連携を考えるー」 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数 : 3件 ・産学官連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回 ・研究シーズ発表会への参加 3名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) : 人間社会学部年間 70件 看護学部年間 41件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) : 人間社会学部年間 9件 看護学部年間 6件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件 招聘件数 2件 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 : 1回 ・保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化 : シンポジウムの開催 1回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」	25	25																																																																																																																					
			2	2	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○4センターが独自の研究を推進できるよう調整を行ってきた。また、27年度においては国際会議を2大学および地域の研究所と共同開催することで研究の推進を図った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○附属研究所の改組を行ったことで、附属研究所を中心とした研究部門の強化を図ることができた。研究部門では重点領域研究を立ち上げ、地域教育課題や医療福祉情報に関わる研究の推進を図ることができた。併せて、附属研究所のセンターを4センターから3センターと整理し、地域連携や社会貢献を中心とした活動の推進を図った。 ○目標実績 No.25 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学際的研究プロジェクト数: 年3件以上</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>同 成果発表会: 隔年1回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>同 報告書発刊: 隔年1回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5回</td> <td></td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>学際的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回</td> <td></td> <td>1回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>産学官連携契約件数: 2件</td> <td>7件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>6件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>知的財産セミナーの開催: 1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>メールマガジンの発行: 年12回以上</td> <td>15回</td> <td>17回</td> <td>15回</td> <td>18回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>研究シーズ発表会への参加: 3名以上</td> <td>2名</td> <td>15名</td> <td>4名</td> <td>4名</td> <td>3名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>論文数: 人間社会学部 年間40件以上</td> <td>21件</td> <td>34件</td> <td>14件</td> <td>36件</td> <td>17件</td> <td>70件</td> </tr> <tr> <td>同 : 看護学部 年間40件以上</td> <td>71件</td> <td>40件</td> <td>35件</td> <td>50件</td> <td>30件</td> <td>41件</td> </tr> <tr> <td>学会発表: 人間社会学部 年間10件以上</td> <td>8件</td> <td>7件</td> <td>5件</td> <td>6件</td> <td>8件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>同 : 看護学部 年間10件以上</td> <td>9件</td> <td>6件</td> <td>1件</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>提携協定校との共同研究数: 年2件以上</td> <td>5件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>同 招聘件数: 年2件以上</td> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>1件</td> <td>0件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>同 共同研究応募件数: 年3件以上</td> <td>3件</td> <td>2件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>		目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	学際的研究プロジェクト数: 年3件以上	4件	4件	5件	6件	3件	3件	同 成果発表会: 隔年1回	3回	2回	1回			1回	同 報告書発刊: 隔年1回				5回		1回	学際的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回		1回				1回	産学官連携契約件数: 2件	7件	2件	2件	6件	2件	2件	知的財産セミナーの開催: 1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	メールマガジンの発行: 年12回以上	15回	17回	15回	18回	12回	12回	研究シーズ発表会への参加: 3名以上	2名	15名	4名	4名	3名	3名	論文数: 人間社会学部 年間40件以上	21件	34件	14件	36件	17件	70件	同 : 看護学部 年間40件以上	71件	40件	35件	50件	30件	41件	学会発表: 人間社会学部 年間10件以上	8件	7件	5件	6件	8件	9件	同 : 看護学部 年間10件以上	9件	6件	1件	3件	1件	6件	提携協定校との共同研究数: 年2件以上	5件	2件	2件	3件	3件	2件	同 招聘件数: 年2件以上	3件	5件	1件	0件	2件	2件	同 共同研究応募件数: 年3件以上	3件	2件	3件	4件	3件	3件	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 25	25
	目標実績																																																																																																																															
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																																										
学際的研究プロジェクト数: 年3件以上	4件	4件	5件	6件	3件	3件																																																																																																																										
同 成果発表会: 隔年1回	3回	2回	1回			1回																																																																																																																										
同 報告書発刊: 隔年1回				5回		1回																																																																																																																										
学際的共同研究シンポジウム開催: 隔年1回		1回				1回																																																																																																																										
産学官連携契約件数: 2件	7件	2件	2件	6件	2件	2件																																																																																																																										
知的財産セミナーの開催: 1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回																																																																																																																										
メールマガジンの発行: 年12回以上	15回	17回	15回	18回	12回	12回																																																																																																																										
研究シーズ発表会への参加: 3名以上	2名	15名	4名	4名	3名	3名																																																																																																																										
論文数: 人間社会学部 年間40件以上	21件	34件	14件	36件	17件	70件																																																																																																																										
同 : 看護学部 年間40件以上	71件	40件	35件	50件	30件	41件																																																																																																																										
学会発表: 人間社会学部 年間10件以上	8件	7件	5件	6件	8件	9件																																																																																																																										
同 : 看護学部 年間10件以上	9件	6件	1件	3件	1件	6件																																																																																																																										
提携協定校との共同研究数: 年2件以上	5件	2件	2件	3件	3件	2件																																																																																																																										
同 招聘件数: 年2件以上	3件	5件	1件	0件	2件	2件																																																																																																																										
同 共同研究応募件数: 年3件以上	3件	2件	3件	4件	3件	3件																																																																																																																										

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																						
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																				
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	2【外部研究資金の獲得の推進】 ①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 :年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)	2-1【平成29年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 :年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率 :80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く)		1	【平成29年度の実施状況】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に非常勤職員を雇用し、事務局機能を強化を図った。また、外部研究資金等の情報を適宜ホームページに掲載(科研費情報掲載は10月)するとともに、全教員へメールにより情報発信した。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度を実施した。 ・不採択となったがA評価だった教員の申請に対し助成を行った。(100千円×2名) ○科研費応募率向上のための研修会を開催した(9月)。 ○目標実績 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 :31件、4,109万円 ・科研費応募率 :95.1%		B	No.19 「研究」		26																																					
			1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○科研費申請繁忙期に非常勤職員を雇用し、事務局機能を強化した。外部研究資金等の情報を適宜ホームページに掲載した。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度を実施した。 ・不採択となったがA評価だった教員の申請に対し助成を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会を開催した。 ○目標実績		A ↓ A	【高く評価する点】 ・外部資金獲得状況はいずれの年度も目標を上回り、年度平均額は5,300万円を超えた。また、応募率については90%を超える実績を積み上げた。 【実施(達成)できなかった点】		中期	26																																				
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.26</th> <th colspan="7">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>平均値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部資金(科研費)獲得件数:年間30件以上</td> <td>32件</td> <td>30件</td> <td>38件</td> <td>34件</td> <td>35件</td> <td>31件</td> <td>33件</td> </tr> <tr> <td>同 獲得金額:年間4,000万円以上(単位:万円)</td> <td>6,177</td> <td>5,759</td> <td>6,473</td> <td>4,910</td> <td>4,461</td> <td>4,109</td> <td>5,315</td> </tr> <tr> <td>科学研究費応募率:80%以上</td> <td>70.1%</td> <td>94.3%</td> <td>92.1%</td> <td>94.3%</td> <td>95.9%</td> <td>95.1%</td> <td>90.3%</td> </tr> </tbody> </table>		No.26	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値	外部資金(科研費)獲得件数:年間30件以上	32件	30件	38件	34件	35件	31件	33件	同 獲得金額:年間4,000万円以上(単位:万円)	6,177	5,759	6,473	4,910	4,461	4,109	5,315	科学研究費応募率:80%以上	70.1%	94.3%	92.1%	94.3%	95.9%	95.1%	90.3%			
No.26	目 標 実 績																																														
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値																																								
外部資金(科研費)獲得件数:年間30件以上	32件	30件	38件	34件	35件	31件	33件																																								
同 獲得金額:年間4,000万円以上(単位:万円)	6,177	5,759	6,473	4,910	4,461	4,109	5,315																																								
科学研究費応募率:80%以上	70.1%	94.3%	92.1%	94.3%	95.9%	95.1%	90.3%																																								

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																		
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上	3-1【平成29年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備については、外部有識者をいれたCOI審査を行った。 ○オンライン研究倫理教育の受講を徹底した。 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組として、規定改訂案の草案を作成した。また、規定改訂案の草案の作成のための小委員会を15回程度行った。 ○個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行い、その内容を若手研究者に対するセミナーで取り扱った。 ○目標実績 ・学外での研修参加：1名 ・セミナー開催：1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：2回開催(4月4日、1月31日)	A	【高く評価する点】 ・外部有識者をいれたCOI審査体制を活用し、3件の審査を実施した。 ・個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行った。 【実施(達成)できなかった点】			27																																	
				1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○オンライン研究倫理教育を導入した。 ○動物実験に関するガイドラインを策定し、実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○研究倫理審査体制の整備については、外部有識者をいれたCOI審査を行った。 ○オンライン研究倫理教育の受講を徹底した。 ○動物実験に関する外部検証を受け、それに基づいた実施ガイドラインを徹底するための委員会開催(小委員会も含む)及び規定改訂案の草案を作成した。 ○個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行い、その内容を若手研究者に対するセミナーで取り扱った。 ○目標実績 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 10%;">No.27</td> <td colspan="6">目標実績</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>学外での研修参加：年1人以上</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>セミナー開催：年1回</td> <td></td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>動物実験に関する委員会：年2回以上</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </table>	No.27	目標実績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	学外での研修参加：年1人以上	1人	1人	1人	1人	1人	1人	セミナー開催：年1回		1回	1回	1回	1回	1回	動物実験に関する委員会：年2回以上	2回	2回	3回	3回	2回	2回	B ↓ A	【高く評価する点】 ・外部有識者をいれたCOI審査体制を活用し、3件の審査を実施した。 ・個人情報保護法及び人を対象とした医学系研究指針に対応した審査基準とチェックリストの開発を行った。 【実施(達成)できなかった点】
No.27	目標実績																																										
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																					
学外での研修参加：年1人以上	1人	1人	1人	1人	1人	1人																																					
セミナー開催：年1回		1回	1回	1回	1回	1回																																					
動物実験に関する委員会：年2回以上	2回	2回	3回	3回	2回	2回																																					
		ウェイト総計	中期 4	29年度 4			項目数計	中期 3	29年度 3																																		

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項(平成29年度)

研究に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

(平成28年度)

①附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 3 社会貢献</p>	<p>「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。</p>
------------------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年	1-1【平成29年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大、三育大、北京中医药大学、南京師範大、コンケン大、威徳大との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・地域の学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを推進する ○国際交流センターの事業推進 ○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年	1	1	【平成29年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 大邱韓医大を訪問し、文化・学術交流推進に関する協議を行った(9月26日、27日)。交流教職員数:7名 吉林大学珠海学院を訪問し、老年看護に関する情報交換を行った。交流教職員数:3名 三育大と、交流の活性化に伴う協定内容の変更のため訪問した(2月9日)。教員数:1名 大邱韓医大から教員を受け入れた(2月~)。教員数:2名 威徳大での文化交流プログラムを実施した(3月20日~24日)。:参加学生数 10名 教員数:4名 三育大を訪問し、短期留学プログラムについて検討した(3月28日、29日)。教員数:3名 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・後藤寺小学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施した(1月17日)。 韓国からの長期留学生6名が参加。 ・伊田小学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施した(1月30日)。 韓国からの短期留学生10名が参加。 ○国際交流センターの事業推進 国際交流センターを活用した、チューターによる受け入れ学生の学習支援を実施した。 ○目標実績 ・教員交流数 :20名 ・文化交流プログラムの実施 :2回 【新たな取り組み】 ・本学プロモーションビデオ(国際版)の制作に向けた取り組みを実施した(3月ビデオ完成)。	A	A	28	28	
		【平成24~27年度の実施状況概略】 ○協定締結校との文化・学術交流事業を推進した。 ○威徳大(韓国)と新たに協定を締結した。 ○国際交流センターを開設した。 ○中国、韓国からの視察団・学生訪問団を受け入れた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○協定締結校への訪問、あるいは協定締結校からの教員の受け入れを通して、協定締結校との関係性と強化し、文化・学術交流を推進することができた。また国際交流センターでのチューターによる受け入れ学生の学習支援の取り組みは、学生間の国際文化交流の意識向上につながった。また平成29年度に作成した本学プロモーションビデオ(国際版)は、本学で学ぶ魅力を伝えるツールとして活用されることが期待される。 ○地域住民との国際交流事業を行った。 ○新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定を締結した。 ○目標実績			A ↓ A					A

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
教員交流数:年間延べ20名以上	16名	11名	15名	22名	25名	20名
文化交流プログラム実施:年1回以上	1回	1回	3回	3回	4回	2回

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度															
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・受入留学生数:30人以上(私費留学生を含む)／年	2-1	1	1	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【留学生への支援体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生の海外短期語学研修機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施する。 ○受入留学生の増加対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・協定校を対象とした短期留学(受入)プログラムの実施 ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供する。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの継続的实施に向けた調整を行う。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を実施し、課題を検討する。 <p>○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会:年1回以上 ・受入留学生数:20名以上(私費留学生含む)</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英国短期語学研修への参加学生数が増加した。研修を通して、学生の語学に対する意識の向上が確認できた。また本プログラムは、福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、実施することができた。 ・短期・長期派遣留学経験者へ向けて、国際交流プログラム評価のための調査を実施し、本学看護学部紀要に投稿し採択された。なお本調査は継続中である。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	29																		
		1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外短期語学研修をイギリスにて実施した。 ○短期海外研修を開始した。 ○短期の留学受入を開始した。 <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度のイギリスでの海外短期語学研修は、参加学生が27名と増加した。語学・文化交流プログラムに加えて、学生の専門分野への意識向上を目的とした「専門分野を学ぶプログラム案」の交渉、企画を行った。この取組が、大邱韓医科大学からの看護学生受け入れの研修プログラムの企画、受け入れにつながった。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>留学を経験した学生の報告会:年1回以上</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>受入留学生数:30名以上(私費留学生含む)</td> <td>11名</td> <td>15名</td> <td>16名</td> <td>25名</td> <td>22名</td> <td>30名</td> </tr> </tbody> </table>						H24	H25	H26	H27	H28	H29	留学を経験した学生の報告会:年1回以上	1回	2回	3回	4回	2回	4回	受入留学生数:30名以上(私費留学生含む)	11名	15名	16名
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																				
留学を経験した学生の報告会:年1回以上	1回	2回	3回	4回	2回	4回																				
受入留学生数:30名以上(私費留学生含む)	11名	15名	16名	25名	22名	30名																				

中期計画		平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																														
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 ：平成27年度までに作成	3-1	【平成29年度計画】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○産炭地復興に関する国際シンポジウムを開催する。	1	【平成29年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○産炭地復興に関する国際シンポジウムを10月14日に開催し、本国際シンポジウムの報告書を作成した。 テーマ「石炭産業終焉後の"地域ビジョン"をめぐってーポスト工業社会における暮らしと文化ー」	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			30																															
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクション絵画4点に記された日本語説明文について英文翻訳を行い、翻訳物については、山本作兵衛コレクション保存管理計画(日本語版・英語版)に盛り込み、英語版をユネスコに提出した。 ○地域の方々との日記現代語訳作業部会は、継続的に開催した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○附属研究所の改組に伴い、山本作兵衛コレクションの保存・活用の見直しと整理を図った。英文アーカイブの基礎となる翻訳作業については、平成27年度に終了した。 ○山本作兵衛氏の日記現代語訳作業部会の活動は、全ての日記を研究叢書として出版できたことにより、平成28年度をもって終了した。 ○国際学術研究交流として、日独国際シンポジウムを開催した。	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		中期 30																																
2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1-1	【平成29年度計画】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討・実施 ○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年	1	【平成29年度の実施状況】 【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】 ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の今後の活動について調整を行った。 ○田川市郡との包括連携事業の推進について、活動状況の確認を行った。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムについて、県立三大学連携県民公開講座を開催した(10月)。 ○目標実績 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.21 「産学官連携」		31																															
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福岡県立大学と田川市および田川郡町村との包括連携協定を締結し、連携事業の内容について協議を行った。 ○県立三大学で連携し、公開講座を実施した。他大学に教員の派遣を行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○福岡県・田川市郡との産学官事業については継続的に協議を行い、調整を図った。 ○県立三大学で連携し、公開講座を実施した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1795 2151 1963"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.31</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上</td> <td>1件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>田川市郡との包括連携事業：年5件以上</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上</td> <td>1企画</td> <td>1企画</td> <td>1企画</td> <td>2企画</td> <td>5企画</td> <td>1企画</td> </tr> </tbody> </table>	No.31	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上	1件	4件	4件	1件	1件	1件	田川市郡との包括連携事業：年5件以上	4件	3件	3件	5件	5件	5件	県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上	1企画	1企画	1企画	2企画	5企画	1企画	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.31	目標実績																																								
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																			
福岡県・田川市郡との産学官連携事業：年1件以上	1件	4件	4件	1件	1件	1件																																			
田川市郡との包括連携事業：年5件以上	4件	3件	3件	5件	5件	5件																																			
県立三大学連携による社会貢献共同プログラム：年1企画以上	1企画	1企画	1企画	2企画	5企画	1企画																																			

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																					
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																			
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1-1【平成29年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業 ・アンビシャス親子広場の見直し ・福祉用具研究会における県との連携強化 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(年間6回以上) ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1	1	【平成29年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 「お父さんお母さんの学習室」：春季クラス、3か月フォロー、6か月フォロー、秋季クラス 計24回開催、参加者延べ72名 「足と靴の相談室」：来談者延べ7名 「おもちゃとしよかん・たがわ」：4～1月に24回開館、来館者延べ119名 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)・愛称：アドボチャイルド」養成事業 学習会4回(参加者120名)、夏祭り1回(参加者80名)、香春町子ども食堂運営協力10回(ボランティア参加60名) オープンキャンパス(見学者40名)。 ・従来のアンビシャス親子広場を学生の参加する新たな活動に再編 ・福祉用具研究会における県との連携強化(福岡県庁からの参加者4月～12月 延べ13名) ○目標実績 ・福祉用具研究会の開催 9回(4月～12月) 参加者延べ322名 ・参加者・相談者アンケート：良好評価100%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」	32																					
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を拡充しながら実施した。 ○福祉用具研究会の開催など福祉分野を中心に地域貢献事業を推進した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○福祉・教育・健康に関わる相談事業を拡充しながら実施した。 ○福祉用具研究会、アドボチャイルドなど福祉分野を中心に地域貢献事業を推進した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1261 1060 2151 1218"> <tr> <td rowspan="2">No.32</td> <td colspan="6">目標実績</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>福祉用具研究会の開催：年6回以上</td> <td>7回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>9回</td> <td>9回</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>参加者・相談者アンケート：良好評価 75%以上</td> <td>80.0%</td> <td>90.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </table>			No.32					目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	福祉用具研究会の開催：年6回以上	7回	8回	8回	9回	9回	9回	参加者・相談者アンケート：良好評価 75%以上	80.0%
No.32	目標実績																													
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																								
福祉用具研究会の開催：年6回以上	7回	8回	8回	9回	9回	9回																								
参加者・相談者アンケート：良好評価 75%以上	80.0%	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%																								

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																													
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																											
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-2	1	<p>【平成29年度計画】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</p> <p><ヘルスプロモーション実践研究センター></p> <p>○健康教室の実施・修正</p> <p>○福祉・教育・健康の相談事業の検討・実施</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教室等: 20件 参加者数: 延べ 800名 参加者アンケート: 良好評価 75%以上 	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】</p> <p>○健康教室の実施・修正</p> <p>健康教室(マザークラス田川) 6回実施、39名参加 健康教室(マザークラス福岡) 6回実施、142名参加 健康大使への継続教育 1回実施、16名参加 筑豊市民大学ヘルシー・エイジングゼミ 11回実施、313名参加 健康教室(ヒーリング) 11回実施、110名参加 「癒やしの空間」の管理運営 4回実施、12名参加 食によるヒーリングパワー 3回実施、17名参加</p> <p>○福祉・教育・健康の相談事業の検討</p> <p>女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」 2回実施、参加9名 性の健康に関する事業 19回実施、244名参加 エンド・オブ・ライフケア教育 3回実施(県立大)、290名参加</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教室等: 66件 参加者数: 延べ 1,192名 参加者アンケート: 98.2% 	B	【高く評価する点】	NO.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	33																													
		<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p><ヘルスプロモーション実践研究センター></p> <p>○健康教室の実施・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度から、新たに地域住民を対象とした高齢者宅訪問を開始し、健康長寿文化を育むための取り組みを継続している。 平成25年度から、新たに性教育出前講座を開始し、性の健康に関する事業拡大を図った。 平成26年度においては、保育士を対象とした保育看護学会の開催規模(回数)を拡大し、子どもの病気の手当等について保育士の健康支援に関する能力向上を図った。 平成27年度においては、多職種がんセミナーの実施回数をこれまでの2倍(4回実施)とすることで、地域住民に対し、終末期における在宅医療について意識向上を図った。 <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○地域住民に対する健康課題解決のための事業を継続的に行った。妊娠・出産、子育て、高齢期の課題解決に対する事業が中心であり、研究にも結び付いている。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.33</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康教室等: 20件</td> <td>26件</td> <td>20件</td> <td>11件</td> <td>11件</td> <td>60件</td> <td>66件</td> </tr> <tr> <td>参加者数: 延べ800名</td> <td>3,782</td> <td>3,225</td> <td>1,933</td> <td>2,402</td> <td>1,321</td> <td>1,192</td> </tr> <tr> <td>参加者アンケート: 良好評価 75%以上</td> <td>98.6%</td> <td>98.6%</td> <td>99.0%</td> <td>98.0%</td> <td>99.7%</td> <td>98.2%</td> </tr> </tbody> </table>		No.33						目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	健康教室等: 20件	26件	20件	11件	11件	60件	66件	参加者数: 延べ800名	3,782	3,225	1,933	2,402	1,321	1,192	参加者アンケート: 良好評価 75%以上	98.6%	98.6%
No.33	目 標 実 績																																					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																
健康教室等: 20件	26件	20件	11件	11件	60件	66件																																
参加者数: 延べ800名	3,782	3,225	1,933	2,402	1,321	1,192																																
参加者アンケート: 良好評価 75%以上	98.6%	98.6%	99.0%	98.0%	99.7%	98.2%																																

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																			
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																	
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-3 【平成29年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと推進する。 ○達成目標 ・サポーター派遣人数：140名以上 ・教員対象研修回数：10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：20名以上 ・登校開始率：37% ※ 登校開始率とは・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	1	1	【平成29年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数275名、延べ2,503名が活動した。 ○教員対象研修事業は、49回の研修を3,386名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数22名、延べ1,252名が通級した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」について、学生活動において明らかになった問題点等を明確化し、センターやプログラムのそれぞれの課題を月2回実施している運営会議の中で検討した。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施した。 地域の教育委員会主催の学習支援を実施している11箇所へ学生を派遣した。派遣学生数は68人、派遣延回数は1,729回であった。 ○県内教育支援センターと民間団体における不登校支援体制の整備に向けて、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施した。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数：275名 ・教員対象研修回数：49回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数：22名 ・登校開始率：68.2% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	A	No.38 「不登校・ひきこもりサポーター」	34	34																																			
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○中期計画に基づいて、各年度とも年度計画を上回って実施した。平成25年度より、「キャンパス・スクール・夏」を開始し、キャンパススクール事業を拡大した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○中期計画に基づいて、各年度とも年度計画を上回って実施した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施した。 ○平成29年度より福岡県不登校児童生徒復帰支援事業を実施した。 ○平成28年度より実施した「土曜の風」は、各年度とも当初計画の延べ500回を超える実績を上げた。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1249 993 2154 1213"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.34</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サポーター派遣人数：140名以上</td> <td>213名</td> <td>199名</td> <td>217名</td> <td>231名</td> <td>270名</td> <td>275名</td> </tr> <tr> <td>教員対象研修回数：10回以上</td> <td>68回</td> <td>68回</td> <td>72回</td> <td>65回</td> <td>67回</td> <td>49回</td> </tr> <tr> <td>キャンパススクール受入れ児童数：20人以上</td> <td>29人</td> <td>32人</td> <td>24人</td> <td>20名</td> <td>21名</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>登校開始率：37%</td> <td>41.4%</td> <td>56.0%</td> <td>66.7%</td> <td>50.0%</td> <td>66.7%</td> <td>68.2%</td> </tr> </tbody> </table>			No.34					目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	サポーター派遣人数：140名以上	213名	199名	217名	231名	270名	275名	教員対象研修回数：10回以上	68回	68回	72回	65回	67回	49回	キャンパススクール受入れ児童数：20人以上	29人	32人	24人	20名	21名	22名	登校開始率：37%	41.4%
No.34	目標実績																																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																						
サポーター派遣人数：140名以上	213名	199名	217名	231名	270名	275名																																						
教員対象研修回数：10回以上	68回	68回	72回	65回	67回	49回																																						
キャンパススクール受入れ児童数：20人以上	29人	32人	24人	20名	21名	22名																																						
登校開始率：37%	41.4%	56.0%	66.7%	50.0%	66.7%	68.2%																																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																								
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																						
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-4	1	1	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施</p> <p>○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援</p> <p>○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上</p> <p>○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと推進する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部団体・機関登録数 90件以上 センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) 社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 年2回 	<p>【平成29年度の実施状況】</p> <p>【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、外部団体の登録件数は187件となり、76件のボランティア依頼情報を学生に提供した。また、延べ1618人の学生相談に応じ、コーディネートにより延べ744人の学生が活動を行った。</p> <p>○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援については、延べ1618人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。学内のボランティアサークルとの懇談会を3回実施し、11グループからの相談に対応した。</p> <p>○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上については、社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会として、「認知症サポーター養成講座」を1月に実施し22名の学生が参加した。</p> <p>○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している11箇所を派遣した。派遣学生数は68人、派遣延べ回数は1,729回であった。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部団体・機関登録件数 187件 センターのコーディネートにより活動を行った学生数 延べ744人 社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 2回 	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>・達成目標における外部団体・機関登録数、及びセンターのコーディネートにより活動を行った学生数が、いずれも当初の目標値を2倍以上と大きく上回った。</p> <p>また、土曜の風の派遣学生数が、当初計画の3倍を超える実績を上げた。</p>	No.16 「学生サークル」	35																																							
				1	1	<p>【平成24～27年度の実施状況概略】</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、毎年度、目標値を超える実績を上げたほか、行政等の関係機関と連携し、ひとり親家庭の学習支援や東北被災地支援など社会的に特に貢献が求められる活動分野の開拓を行った。</p> <p>○毎年度、社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を目標値を上回る回数で開催するとともに、学生ボランティアサークル等の支援を積極的に行った結果、センターが学生の活動の拠点として認知され、活用されるようになった。</p> <p>【平成28、29年度の実施状況概略】</p> <p>○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネート数は、毎年度、目標値を超える実績を上げた。そのほか、LGBT問題の啓発活動サークル立ち上げ支援や、熊本地震及び北部九州豪雨災害の災害支援活動など、社会的に特に貢献が求められる活動分野の開拓を行った。</p> <p>○平成28年度より実施した「土曜の風」は、各年度とも当初計画の延べ500回を超える実績を上げた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.35</th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部団体・機関登録数：90件以上</td> <td>118件</td> <td>131件</td> <td>148件</td> <td>163件</td> <td>174件</td> <td>187件</td> </tr> <tr> <td>コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人</td> <td>304人</td> <td>447人</td> <td>414人</td> <td>509人</td> <td>477人</td> <td>744人</td> </tr> <tr> <td>社会貢献フォーラム開催：1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	No.35	目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件	174件	187件	コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人	477人	744人	社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回				社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回	2回	2回	B ↓ A	<p>【高く評価する点】</p> <p>・学生活動数、センター利用学生数が増加した。さらに土曜の風の派遣学生数が、当初計画の3倍を超える実績を上げた。</p>
No.35	目 標 実 績																																																
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																											
外部団体・機関登録数：90件以上	118件	131件	148件	163件	174件	187件																																											
コーディネートにより活動を行った学生数：延べ300人	304人	447人	414人	509人	477人	744人																																											
社会貢献フォーラム開催：1回	1回	1回	1回																																														
社会貢献・ボランティア活動に関する研修会等：2回				4回	2回	2回																																											

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																																														
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																																																												
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 ：年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名	2-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 「特別支援教育・スキルアッププログラム」:5回実施、参加者延べ145名 「平成29年度直方市要保護児童対策地域協議会研修会 ペアレントトレーニングのスキルアップ講座」:5回実施、参加者延べ155名 ○教育研修活動の実施 「筑豊英語教員フォーラム」:22回開催、参加者延べ330名 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 リカレントセミナー実施:2回実施、参加者120名 平成28年度のリカレントセミナーの内容を、「福岡県立大学社会福祉学会第8回大会特集号」(平成30年3月刊行)の中で、掲載した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育の実施 看護職へのリカレント教育 1回実施(看護師2名、助産師36名うち卒業生2名)(事業完了) 保健師リカレント教育 2回実施(保健師41名、看護師41名うち卒業生22名)(事業完了) 地域住民の感染症予防スキルアップ事業 11回実施(一般214名)(事業完了) 看護技術追跡調査実施 :看護師、保健師、助産師各リカレント教育時に調査実施(1回) ○目標実績 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 ：各ライセンス向けのリカレント実施数 ・社会福祉士及び精神保健福祉士対象のリカレント教育 1事業実施 ・看護師対象のリカレント教育 1事業実施 ・助産師対象のリカレント教育 1事業実施 ・保健師対象のリカレント教育 2事業実施 ・卒業生参加数 :卒業生参加数 看護学部 年間24名 人間社会学部 年間42名 ・看護技術追跡調査実施 :1回	B		N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」		36																																																													
				1		【平成24～27年度の実施状況概略】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○生涯福祉研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を実施した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○各種リカレント教育を実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○生涯福祉研究センターの資源を生かして、地域ニーズの極めて高い発達障害や児童虐待に対応するため、「特別支援教育・スキルアッププログラム」や「直方市要保護児童対策地域協議会研修会」など、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を実施した。 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○ニーズの変化に対応しながら、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センターの資源を生かして、地域の資格・免許保持者等及び卒業生へのリカレント教育や研修を継続実施した。 ・保健師、助産師、看護師ともにリカレント教育の充実を図った。どの看護職においても必要な「看護倫理」について、学内外が受講できるよう「源流塾」として実施した。 ・大学院入学生確保においても、リカレント教育と連動させて教育内容の充実を図るため検討した。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1231 1375 2181 1669"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.36</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉士・精神保健福祉士対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>1事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> <td>1事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>看護師対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>4事業</td> <td>3事業</td> <td>4事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>助産師対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>1事業</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>保健師対象のリカレント教育: 1事業以上</td> <td>4事業</td> <td>1事業</td> <td>3事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> <td>2事業</td> </tr> <tr> <td>卒業生参加数(人間社会学部): 10名</td> <td>51名</td> <td>57名</td> <td>48名</td> <td>44名</td> <td>43名</td> <td>42名</td> </tr> <tr> <td>卒業生参加数(看護学部): 10名</td> <td>10名</td> <td>10名</td> <td>12名</td> <td>11名</td> <td>17名</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>看護技術追跡調査実施状況: 年1回</td> <td></td> <td></td> <td>11回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	No.36	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	社会福祉士・精神保健福祉士対象のリカレント教育: 1事業以上	1事業	2事業	1事業	1事業	2事業	1事業	看護師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	3事業	4事業	2事業	2事業	1事業	助産師対象のリカレント教育: 1事業以上	2事業	2事業	2事業	2事業	1事業	1事業	保健師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	1事業	3事業	2事業	2事業	2事業	卒業生参加数(人間社会学部): 10名	51名	57名	48名	44名	43名	42名	卒業生参加数(看護学部): 10名	10名	10名	12名	11名	17名	24名	看護技術追跡調査実施状況: 年1回			11回	8回	2回	1回	B ↓ A		＜生涯福祉研究センター＞ ・地域ニーズの極めて高い発達障害や児童虐待に対応するため、専門職へのリカレント教育や研修を新たに開始し、内容を充実させながら継続的に実施した。 【実施(達成)できなかった点】
No.36	目標実績																																																																						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																	
社会福祉士・精神保健福祉士対象のリカレント教育: 1事業以上	1事業	2事業	1事業	1事業	2事業	1事業																																																																	
看護師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	3事業	4事業	2事業	2事業	1事業																																																																	
助産師対象のリカレント教育: 1事業以上	2事業	2事業	2事業	2事業	1事業	1事業																																																																	
保健師対象のリカレント教育: 1事業以上	4事業	1事業	3事業	2事業	2事業	2事業																																																																	
卒業生参加数(人間社会学部): 10名	51名	57名	48名	44名	43名	42名																																																																	
卒業生参加数(看護学部): 10名	10名	10名	12名	11名	17名	24名																																																																	
看護技術追跡調査実施状況: 年1回			11回	8回	2回	1回																																																																	

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																					
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	3-1	【平成29年度計画】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開の検討 ○公開講座の実施 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	1	【平成29年度の実施状況】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開の検討については、滋賀県議会の視察受入を行った(11月)。 ○公開講座の実施については、10月及び2月に3講座開催した。 ○MOW「山本作兵衛の日記等」の保存・管理をユネスコ基準に則り適切に行った。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討のため、昨年度に引き続き12月に視察を行った。 ○目標実績 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :5回 ・公開講座の実施回数 :3回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37																							
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○公開講座については、本学で実施するだけでなく県立三大学で連携して行った。 ○不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、毎年、全国の県議会、団体等の視察を受け入れた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○公開講座について、県立三大学で連携して開催できるよう調整を図り、実施した。 ○不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、文部科学省、並びに4府県議会および1県外市議会の文教委員会の視察を受け入れた。 ○目標実績	B ↓ A					【高く評価する点】 ・不登校・ひきこもりサポートセンターの活動状況について、毎年全国の県議会、団体等の視察を受け入れ、大学の認知度アップにつながった。 【実施(達成)できなかった点】	中期 37																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.37</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>附属研究所活動紹介の回数: 年5回以上</td> <td>7回</td> <td>7回</td> <td>12回</td> <td>14回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>公開講座の実施: 年3回以上</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> </tbody> </table>		No.37		目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	附属研究所活動紹介の回数: 年5回以上	7回	7回	12回	14回	5回	5回	公開講座の実施: 年3回以上	4回	4回	4回	3回	3回	3回	
No.37	目標実績																															
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																										
附属研究所活動紹介の回数: 年5回以上	7回	7回	12回	14回	5回	5回																										
公開講座の実施: 年3回以上	4回	4回	4回	3回	3回	3回																										

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	4【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率 ：(志願者数/募集人員) ：1.5倍以上 ・認定合格率：90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催：年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修会：年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催：年1回以上 参加者アンケート：良好評価75%以上 ・健康教室：年3回以上開催 参加者アンケート：良好評価75%以上	4-1	1	1	【平成29年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) 患者教育研究会延べ参加者数：計34名(4月21日、6月9日、8月25日、10月27日、1月30日) リカレントセミナー：参加者数244名(7月16日) フォローアップ研修会：参加者数18名(8月12日) ○糖尿病健康教育活動の実施 糖尿病予防教育(出前講義)：計386名(6月10日、7月16日) 糖尿病教育(出前講義)：計36名(7月14日、15日) 糖尿病予防教育(近隣高校への出前講義)：118名(1月24日、25日) ○積極的な広報活動 8月5日のオープンキャンパスでの説明会(9名参加) リクルートのためのリカレントセミナー参加者(7月16日実施、244名)に募集案内のチラシ配布 第56回日本糖尿病学会・九州地方会(10月13日、14日開催)で募集案内(二次募集)のチラシ配布(50枚) 修了生に入学試験募集案内(二次募集)のチラシを配布 ○目標実績 ・入学試験志願倍率(12名/18名) 0.7倍 ・認定審査合格率：100%(12名) ・患者教育研究会延べ参加者数：計34名/5回 ・セミナー参加者数：244名、アンケート良好評価94.6% ・糖尿病予防教育(出前講義) 開催回数 6回、アンケート良好評価97.4%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・志願倍率が0.7と前年度より下がっている。病院からの派遣が多く、診療報酬の改正の影響を受けやすい。	38	38	
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○認定看護師教育においては、平成24～27年度は4年連続で認定審査合格率100%を達成した。(全国の糖尿病看護分野教育機関で唯一) この点は、平成27年度の教育機関更新認定審査においても日本看護協会より高い評価を得た。平成28年5月現在、累計103名の糖尿病看護認定看護師を輩出している。 ○教育機関数の増加、認定看護分野の増加・特定行為に係る看護師等の他の専門資格の増加の影響により、入学試験志願倍率が平成24年度から平成26年度において減少していたが、広報活動の強化及び受験希望者への相談会等を実施したことにより、平成27年度は0.89倍へと若干の増加に転じた。 ○リカレント教育、糖尿病健康教育活動については、毎年度計画どおり実施した。特に、リカレント教育では目標を大きく上回る参加者数であり、参加者アンケートでも常に90%以上の高評価を得た。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○認定看護師教育については、正課時間外も含めたきめ細かい学習・生活に関する相談対応や専門的学習の支援を継続し、認定審査合格率100%の維持を目指し、教育した。 ○受験希望者に向けた説明・相談会を強化し、より具体的な情報提供を行うとともに、個別の疑問点等に対応した。 ○目標実績			B ↓ B					【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
ウエイト総計		中期	29年度	項目数計				中期	29年度	
			11	11					11	11

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

社会貢献に関する特記事項(平成29年度)

(平成29年度)

- ①本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。
- ②福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。
- ③日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。
- ④福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。

社会貢献に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

(平成26年度)

- ①11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。

(平成27年度)

- ②韓国の威徳大学との交流協定を締結した。
- ③外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先(社会福祉・ボランティア活動)として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。
- ④4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。
- ⑤不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団(長崎国際大学・佐世保市)を受け入れた。

(平成28年度)

- ⑥「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。
- ⑦長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。
- ⑧学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。
- ⑨新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。
- ⑩福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣を行った。

(平成29年度)

- ①本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。
- ②福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。
- ③日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。
- ④福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 4 業務運営</p>	<p>「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。</p>
------------------------	---

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度	
1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。	1【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。 ○達成目標 ・プロパー職員の採用 ：平成27年度まで8名以上	1-1【平成29年度計画】 【事務局機能の強化】 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修への派遣及び学内SD研修の実施 ○事務局データベースとしてのファイル共有システムの活用 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の事例検討 ○防犯講習会の開催(年2回) ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防災訓練の実施・充実 ○県立三大学の事務処理共通化について、三大学経営管理部会議を開催して引き続き検討する ○学内LANシステムの全面更新を行い学内ネットワークの効率化を図る ○事務局PC及びファイル共有システムの更新による事務の効率化を図る。 ○達成目標 ・防災訓練の実施 :1回/年		1	【平成29年度の実施状況】 【事務局機能の強化】 ○九州大学主催のSD研修(新任主任級2名、新任課長級1名)及び公立大学協会主催の事務職員会計研修に2名派遣した。また、学内研修(大学改革セミナー)を11月に実施した。(参加者:61名) ○ファイルサーバー更新に伴い、新ファイル共有システムへの移行及び有効活用を推進した。 ○職員・学生からのヒヤリ・ハット事象の収集方法を検討した。 ○新入生と在校生への防犯講習会を対象別に開催した。(4月) ○女子寮の防災訓練(6月)、全学の防災訓練(12月)を実施した。 ○三大学共用の会計システム運用会議を年3回(9月・12月・2月)実施した。また、他業務に対する会議等の定例化開催に対する呼び掛けを行った。 ○学内LANシステムの全面更新(平成28年度実施)により学内ネットワークの効率化を図った。 ○事務局PC及びファイルサーバーを更新し事務の効率化を図った。 ○目標実績 ・防災訓練の実施 :2回 ◎特殊要因に伴う取組 平成27年度までに採用した8名のプロパー職員に欠員が生じ、補充に係る職員採用試験を実施した。(平成30年4月1日付 2名採用)		A	【高く評価する点】 ・新たに九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】			39
				1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○プロパー職員の採用については、計画どおりに進めた。 ○事務局機能強化のため、平成25年度から総務、財務管理、教務企画の3班を経営企画、総務財務、教務入試の3班に再編した。また、統一様式による業務マニュアルを作成し、共有ファイルシステムの運用を開始した。 ○新規採用プロパー職員を中心に、公立大学協会主催の事務職員対象研修に参加させた。また、事務職員を対象としたSD研修を実施した。 ○安全管理体制の充実に関しては、防犯講習会の開催、防火訓練の実施を行った。 ○県立三大学の事務担当者会議、経営管理部会議を開催し、事務処理の共通化等について検討した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○プロパー職員退職(2名)による欠員の補充のため、平成29年度に採用試験を実施した。(平成30年4月1日付採用) ○ファイル共有システムの有効活用を推進し、情報の共有化により事務作業の効率化等を図った。 ○九州大学主催のSD研修や公立大学協会主催の事務職員研修へ積極的に参加させるとともに、学内研修も実施し事務職員の能力向上を図った。 ○学内LANシステムやファイルサーバーを更新し、学内ネットワークの効率化及び蓄積情報の共有化を図った。 ○防犯講習会及び女子寮と全学を対象とした防災訓練を実施した。また、職員及び学生よりのヒヤリ・ハット事象の情報収集手法の検討を行った。(次期計画期間より収集開始予定) ○三大学で共用する「会計システム」の運用会議を定期的実施するとともに、他業務に関する会議等の定例化を呼びかけた。 ○目標実績		B ↓ A	【高く評価する点】 ・プロパー職員の採用を計画どおり進め、退職による欠員に対しても単独選考試験を実施し、補充を行った。 ・新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層の資質向上を図ることができた。 【実施(達成)できなかった点】			中期 39

No.39	目 標 実 績					
	H24	H25	H26	H27	H28	H29
	プロパー職員の採用: 8名以上(H27年度までに)	2名	3名(計5名)	2名(計7名)	1名(計8名)	
防災訓練の実施: 年1回		1回	1回	2回	2回	2回

中期計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																									
項目	実施事項	平成29年度計画	中期 年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																							
※1 運営体制の改善の続き	2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) : 毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 : 30%	2-1【平成29年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保する。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を準備する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 : 30%	1	【平成29年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○ベストティーチャー表彰を行った。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保した。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を検討した(看護学部)。 ○目標実績 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) : 1名 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 : 30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			40																								
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。 ○研究奨励交付金における学長留保分5%枠を確保した。 ○新たに開設する大学院コースについて、教員の授業上限数改善を図った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○ベストティーチャーの公募を行い、ベストティーチャーを選定した。 ○研究奨励交付金における学長留保分5%枠を確保した。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を検討した(看護学部)。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1240 898 2160 1054"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.40</th> <th colspan="6">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員表彰の実施</td> <td>未実施</td> <td>2名</td> <td>該当者なし</td> <td>1名</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>研究費に占める研究奨励金の割合: 30%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> <td>30.0%</td> </tr> </tbody> </table>	No.40	目標実績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	教員表彰の実施	未実施	2名	該当者なし	1名	1名	1名	研究費に占める研究奨励金の割合: 30%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.40	目標実績																																
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																											
教員表彰の実施	未実施	2名	該当者なし	1名	1名	1名																											
研究費に占める研究奨励金の割合: 30%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%	30.0%																											
	3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	3-1【平成29年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した評価基準に基づく教員個人業績評価を実施する。	1	【平成29年度の実施状況】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成28年度実績に係る教員個人業績評価を実施した。 ・評価対象者 95名(うち評価猶予者 1名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】			41																								
			1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度から教員個人業績評価基準の見直しに関する検討を行い、平成25年度に見直し方針・見直し案を策定した。見直した教員個人業績評価基準に基づく教員個人業績評価は、平成27年度(平成26年度分)から実施した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○見直した教員個人業績評価の改正基準により評価を実施した。	A ↓ A	【高く評価する点】 ・評価基準の大幅な見直しを行い、適切な運用に努めた。 【実施(達成)できなかった点】		中期 41																									

中期計画		平成29年度計画		ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項	4-1	【平成29年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○各個別マニュアルの必要に応じた修正	中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期
※1 運営体制の改善の続き	4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1	【平成29年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○各個別マニュアルの必要に応じた修正		1	【平成29年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○国際交流に関する個別危機管理マニュアルの見直しを行った。 ○7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。 ○防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。		A	【高く評価する点】 ・九州北部豪雨時に適切な対応が出来た。 ・防犯カメラの増設等による安全対策を強化した。 【実施(達成)できなかった点】		42
					1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○平成24年度に実施した他公立大学のリスクマネジメント体制の調査、潜在するリスクの洗い出し作業を基に、平成25年度に基本指針(案)、洗い出したリスク別の対応方法(案)を作成した。 平成26年度に基本指針及び危機管理規定を決定し、平成27年度に危機管理マニュアルを策定した。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○危機管理基本マニュアルの周知を図るとともに、国際交流に関する個別危機管理マニュアルの見直しを行った。 ○九州北部豪雨時に社会調査実習に行き孤立した学生・教員の救援に対し適切な対応を取ることができた。 ○防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。		B ↓ A	【高く評価する点】 ・九州北部豪雨時に適切な対応が出来た。 ・防犯カメラの増設等による安全対策を強化した。 【実施(達成)できなかった点】		中期 42
		ウエイト総計		中期	29年度			項目数計		中期	29年度
				4	4					4	4

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

【ウエイト付けの理由】(中期計画)

<p>業務運営に関する特記事項(平成29年度)</p> <p>(平成29年度)</p> <p>①新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。 ②平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。 ③防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。 ④学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。</p>
<p>業務運営に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)</p> <p>(平成25年度)</p> <p>①福岡県立大学憲章を制定した。 ②学内委員会・部会の抜本的見直しをおこなった。教員の負担等に配慮し、再編統合により委員会・部会数を減じた。また、理事長のもと、全学的課題の改革推進を担当する改革推進委員会を学内協議機関として新たに設置した。</p> <p>(平成26年度)</p> <p>③組織規則を改正し、理事長のもとに新たに5つの委員会(総務人事委、予算委、教務入試委、学生委、地域連携委)を学内協議機関として設置した。この主要5委員会のもとに全ての部会を位置づけ階層性を持たせた。理事長・学長のリーダーシップに基づく意志決定の流れを明確化し、部会の活性化を図った。</p> <p>(平成29年度)</p> <p>④新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。 ⑤平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。 ⑥防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。 ⑦学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。</p>

項目別の状況(年度計画項目・中期計画項目)

<p>中期目標 5 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。</p>
----------------------	--

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
			中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期	年度
1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。	1 【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額 :年間5,000万円以上	1-1 【平成29年度計画】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報の実施 ○自主財源基金化スキームの平成29年度実施に向けた検討 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得金額 :年間5,000万円以上	2	2	【平成29年度の実施状況】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○適宜、ホームページに外部研究資金公募情報を掲載するとともに、全教員へのメール発信を行った。 ○科研費応募率向上のための研修会を実施した。(9月) ○県大基金への寄附金等を増加させるため、ホームページ掲載情報の充実を図った。 ○自主財源基金化スキームについて検討を行った。 ○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額 :5,086万円	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.19 「研究」	43	43
		【平成24～27年度の実施状況概略】 ○外部研究資金獲得の推進については、支援部門設立ではなく、申請繁忙期に事務局機能を強化・充実することとして実施した。ホームページへの掲載による情報提供機能の充実、速報性を高めることに努めた。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度として、平成25年度から科研費補助制度を創設し、不採択となったがA評価だった申請者に対する助成を行った。科研費応募率向上のための研修会は毎年度開催した。 ○県大基金への寄附金等を増加させるための広報活動として、「大学広報」、大学HPへの掲載を行った。また、自主財源基金化スキームの実現に向けた検討を行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○ホームページ掲載やメール発信により、外部研究資金等の情報提供機能の充実・速報性を高め、応募率向上のための研修会を開催するとともに、申請手続き等の繁忙期における事務局機能の強化を図った。また、科研費応募者へのインセンティブ制度(不採択となったがA評価だった申請者に対する助成)も継続して実施した。 ○県大基金への寄附金等を増加させるため、広報誌やホームページを活用した広報を行った。なお、ホームページは、掲載情報の見直しを行い充実化を図った。また、自主財源基金化スキームについての検討を行った。 ○目標実績			A ↓ A					

No.43	目標実績						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	平均値
外部研究資金等獲得金額:年間5,000万円以上(単位:万円)	11,100	10,055	11,168	8,331	6,291	5,086	8,672

中期計画		平成29年度計画	ウエイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																			
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度																	
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成29年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年		1	【平成29年度の実施状況】 【業務改善による経費の削減】 ○急を要する物以外は、消耗品集中発注システムの積極的活用を推奨し、一括発注に努めた。 ○ストレスチェックの導入に伴い、事務局の業務負荷を軽減させるため、当該業務を外部委託した。 ○省エネ対策推進のため、女子寮周辺の外灯をLED灯に改修した。また、室内電灯の蛍光管も随時LED管に更新している。 ○目標実績 ・業務改善件数 1件(女子寮周辺外灯のLED化)		B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44																		
			1	【平成24~27年度の実施状況概略】 ○業務改善については、物品発注方法の見直しとして、消耗品の集中発注システムを導入し活用した。アウトソーシング可能な業務の検討を行い、平成25年度から国際交流関係業務についてアウトソーシングを実施した。また、授業評価アンケート等大量の集計作業のアウトソーシングについて検討した。 ○省エネ対策(節電対策)については、空調管理の徹底、照明の間引き、昼休みの消灯、エレベーター稼働台数の削減等を実施し、夏期の節電を呼びかけた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○消耗品の集中発注システムについて、より一層の積極的な活用を推奨した。また、ストレスチェック導入に伴い、当該業務の外部委託化を行い事務局の業務負荷を軽減させた。 ○省エネ対策として、外灯(正門側通路、駐車場、女子寮)をLED灯に改修した。また、室内電灯の蛍光管を随時LED管に更新している。 ○目標実績 <table border="1" data-bbox="1240 806 2122 919"> <tr> <td>No.44</td> <td colspan="6">目 標 実 績</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>業務改善件数: 年1件以上</td> <td>3件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> <td>1件</td> </tr> </table>	No.44	目 標 実 績							H24	H25	H26	H27	H28	H29	業務改善件数: 年1件以上	3件	1件	2件	1件	1件	1件		B ↓ B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】
No.44	目 標 実 績																											
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																						
業務改善件数: 年1件以上	3件	1件	2件	1件	1件	1件																						

中期計画		平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																
項目	実施事項		中期	年度		暫定 ↓ 中期	年度		中期目標期間評価理由 又は 年度評価理由	中期	年度														
※2 運営経費の削減・抑制の続き	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1【平成29年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成29年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H29年度新規事業分を除く)	1	1	【平成29年度の実施状況】 【人件費の抑制】 ○退職教員の補充においては、教育水準の維持・向上に配慮した上で、極力若手教員の採用に努めた。 ○ワークライフバランスの推進と時間外勤務の縮減を図るため、週休日勤務に対する振替を徹底した。 ○目標実績 ・平成29年度時間外勤務時間数：前年度比 ▲3%	A	【高く評価する点】 ・ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「経費削減」	45	45															
			1	1	【平成24～27年度の実施状況概略】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、若手教員の採用に努めた。 ○時間外勤務縮減の一環として、土日の時間外勤務における週休日振替の徹底を呼びかけた。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○退職教員の補充において、教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、極力若手教員の採用に努めた。また、ワークライフバランスの推進と時間外勤務の縮減を図るため、週休日勤務に対する振替を徹底した。 ○目標実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No.45</th> <th colspan="5">目標実績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間外勤務時間数：前年度を下回ること</td> <td>508</td> <td>▲ 318</td> <td>512</td> <td>▲ 3,130</td> <td>▲ 1%</td> <td>▲ 3%</td> </tr> </tbody> </table>						No.45	目標実績					H24	H25	H26	H27	H28	H29	時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318
No.45	目標実績																								
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																			
時間外勤務時間数：前年度を下回ること	508	▲ 318	512	▲ 3,130	▲ 1%	▲ 3%																			
ウェイト総計		中期 4	29年度 4	項目数計		中期 3	29年度 3																		

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項(平成29年度)

(平成29年度)
①ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。

財務に関する特記事項(平成24年度～平成29年度)

(平成28年度)
①正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。
②「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。
③アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。

(平成29年度)
④ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。

項目	実施事項	平成29年度計画	ウェイト		計画の実施状況等	暫定 ↓ 中期	自己評価		データ 番号	通し番号																																																								
			中期	年度			年度	中期		年度																																																								
2 広報活動の充実・強化 大学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1-1【平成29年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの全面更新を行い、内容の更新チェックを定期的に行う ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1	1	【平成29年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○ホームページリニューアル(平成28年度実施)の後、随時掲載内容のチェック等を行い更新した。また、紹介動画(国際版)を作成し掲載した。 ○スマートフォンにも対応したホームページとしたことにより、アクセス数が大幅に増加した。(平成28年度:約227,000件 → 平成29年度:315,000件) ○ホームページの教育情報中の任意情報についても随時更新を行った。 ○入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」(Facebook)を随時更新し、広報活動の充実を図った。 ○報道機関に対し、大学主催事業(フォーラム等)の情報を積極的に発信した。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回 ・出前講義数及びアンケート :出前講義 22回、良好評価 99.5% ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :4件(オープンキャンパス 2回、高校等訪問、高校等来校) ・メディアに取り上げられた件数 :新聞(地方版) 19件	B	【高く評価する点】	No.5 「出前講義」	47	47																																																								
					【平成24~27年度の実施状況概略】 ○HPの充実については、掲載情報の更新チェック体制を整備するとともに、フラッシュの定期的な変更を実施した。平成27年度にはスマートフォンに対応したHPを新規に作成した。 ○教育プログラム等の広報については、HPで公表している教育情報の更新・充実を図った。文科省採択事業や「ブレインターニッシュ」をはじめとする特色ある教育プログラム等の掲載や、「全学横断型教育プログラム」のバナー掲載を行った。 ○広報活動においては、「大学案内」、「大学広報」の刊行、高校への出前講義によるPR活動を実施した。また、大学が実施する講座・セミナー、卒論公開発表会等の記者資料提供を積極的に行った。 【平成28、29年度の実施状況概略】 ○ホームページを見やすくリニューアルし、掲載情報も随時更新を行った。また、新たに作成した紹介動画(国際版)をホームページに掲載し情報の充実を図った。 ○ホームページに掲載している教育プログラム等情報を随時更新するとともに、オープンキャンパス、高校訪問及び来校時に積極的な広報活動を行った。 ○フェイスブックを活用した新たな情報発信を開始し、広報活動の充実を図った。 ○大学発のイベント等を実施する際には、積極的に報道機関への情報発信を行うこととした。 ○目標実績 No.47 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">目 標 実 績</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学案内パンフレット作成: 2種類</td> <td>1種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> <td>2種類</td> </tr> <tr> <td>広報誌の作成: 年2回発行</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>出前講義: 20回以上</td> <td>30回</td> <td>26回</td> <td>31回</td> <td>25回</td> <td>24回</td> <td>22回</td> </tr> <tr> <td>同 アンケート: 良好評価75%以上</td> <td>90.5%</td> <td>98.9%</td> <td>94.5%</td> <td>97.9%</td> <td>98.9%</td> <td>99.5%</td> </tr> <tr> <td>教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上</td> <td>1件</td> <td>7件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上</td> <td>18件</td> <td>18件</td> <td>22件</td> <td>16件</td> <td>12件</td> <td>19件</td> </tr> <tr> <td>同 : 全国版 1件以上</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>1件</td> <td>2件</td> <td>0件</td> </tr> </tbody> </table>						目 標 実 績						H24	H25	H26	H27	H28	H29	大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類	2種類	2種類	広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回	2回	2回	出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回	同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%	教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件	4件	4件	メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件	12件	19件	同 : 全国版 1件以上	2件
	目 標 実 績																																																																	
	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																												
大学案内パンフレット作成: 2種類	1種類	2種類	2種類	2種類	2種類	2種類																																																												
広報誌の作成: 年2回発行	2回	2回	2回	2回	2回	2回																																																												
出前講義: 20回以上	30回	26回	31回	25回	24回	22回																																																												
同 アンケート: 良好評価75%以上	90.5%	98.9%	94.5%	97.9%	98.9%	99.5%																																																												
教育プログラム紹介の広報活動実績: 年3件以上	1件	7件	3件	3件	4件	4件																																																												
メディアに取り上げられた件数: 地方版 5件以上	18件	18件	22件	16件	12件	19件																																																												
同 : 全国版 1件以上	2件	2件	2件	1件	2件	0件																																																												
ウェイト総計			中期 2	29年度 2			項目数計		中期 2	29年度 2																																																								

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

【ウェイト付けの理由】(中期計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成29年度)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成24年度~平成29年度)

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
 ※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項(平成29年度)	関連する通し番号
【教育】	
①学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。	1
②看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。 また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。	3
③人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。	7
④看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。	8
⑤コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。	9
⑥看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。	11
⑦授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。	12
⑧教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。	14
⑨大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。	19
⑩機関リポジトリの拡充、及びラーニングコモンズ利用促進のため、図書館セミナーを実施した。	22
【社会貢献】	
⑪本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。	28
⑫福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。	29
⑬日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。	30
⑭福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。	34
【業務運営】	
⑮新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。	39
⑯平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と迅速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。	42
⑰防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。	42
⑱学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。	
【財務】	
⑲ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。	45

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
 ※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項(平成24年度～平成29年度)	関連する通し番号
(平成24年度)	
①文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」において、本学を代表校とする九州・沖縄8大学の取組「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」が選定された。	9
②文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」において、本学を含む24大学・短大の取組「地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト」が選定された。	9
③放送大学との連携協定を締結した。	1
④ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアムの福岡県メンバー8校と福岡県警察本部及び関係警察署との間で、「キャンパス・セーフティ・ネットワーク(通称:CSN)」を構築し、展開するための協定を締結した。	9
(平成25年度)	
⑤福岡県立大学憲章を制定した。	
⑥改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編を行った。	46
(平成26年度)	
⑦両学部で学ぶ専門科目に加え、専門的職業人に求められる能力を養成する教育プログラムである「全学横断型教育プログラム」を編成し、大学案内にも7頁にわたり記載して、学内外に広く周知した。全学横断型教育プログラムとして、今年度は「援助力養成プログラム」、「国際交流プログラム」、「キャリア形成支援プログラム」の3プログラムを編成し、今後更に拡充を図ることとしている。	1
⑧11月1日～3日まで福岡県にて開催された「スペシャルオリンピックス2014」において、選手村の一つ(福岡県立社会教育総合センター)を本学学生が主となって運営した。参加学生は36名であり、不登校・ひきこもりサポートセンターの専門研究員が副村長としてコーディネートした。500名を超えるアスリートの選手村生活に際し、臨機応変に対応を行い、大学としては唯一、スペシャルオリンピックス2014実行委員会から表彰を受けた。	
⑨情報処理教室1及び2の機器更新に伴い、コンピュータを配置した演習室を整備し、学生が自己学習でき、大学院やゼミなど少人数でコンピュータを使用しながら講義ができる環境を整備した(3208演習室)。	20
⑩ガバナンス改革の一環として、学内委員会・部会を抜本的に再編し、全部会を主要5委員会の下に位置付けた。これにより、意思決定の枠組みが明確となり、委員会・部会の活性化が図られた。	46
⑪西鉄バス筑豊(株)との協議により、平成27年3月21日から「筑豊特急」線(福岡～田川伊田)が本学構内への乗り入れ(始発・終着)を開始し、本学学生・教職員のみならず、地域住民の利便性向上が図られた。	
(平成27年度)	
⑫文部科学省大学間連携共同教育推進事業の中間評価において、本学を代表校とする取組(8大学連携)が最高ランクのS評価を受けた。47件の取組の中でS評価は7件であり、公立大学が代表校となる取組は全国で唯一のものであった。	9
⑬文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)の中間評価において、本学を代表とする取組(3大学連携)が高く評価され、全国のモデルとなるよう今後の展開に期待しているとのコメントを得た。	9
⑭韓国の威徳大学との交流協定を締結した。	28
⑮外務省JENESYS2.0プログラムである日中友好会館中国大学生招聘事業の訪問先(社会福祉・ボランティア活動)として全国の大学で唯一本学が選定され、100名の中国大学生の訪問を受け入れた。	28
⑯4年次卒業を可能とする全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を整備した。	29
⑰不登校・ひきこもりサポートセンターをモデルとする部門開設を目的とする視察団(長崎国際大学・佐世保市)を受け入れた。	34

特記事項(平成24年度～平成29年度)	関連する 通し番号
(平成28年度)	
⑱大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。 「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」	15
⑲学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。	22
⑳学生のアクティブラーニングを推進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。	22
㉑附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。 新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。	26
㉒「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。	25,28
㉓長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。	28
㉔学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。	28
㉕新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。	28
㉖福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣を行った。	34
㉗正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。	44
㉘「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。	44
㉙アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを、グループワーク時に簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。	44
(平成29年度)	
⑳学生の教育効果に基づき幅広く体系的な教養科目の履修を促すために、全学共通科目を大幅に見直し科目の削減と再編成を行うとともに、全学横断型新規科目を複数増設し再編成を行った。	1
㉑看護学部において、平成31年施行の新カリキュラムの骨子案の作成に伴い、これまでの学系・領域を外し、学部長をトップに教授がコーディネータを担う5つの「委員会」を構成し、教員は最低2つの委員会に属する教員組織とする見直しを行った。 また、学部運営への積極的参画を進めるために、「平成30年度から助教及び助手を教授会の構成員とする」ことを決定した。	3
㉒人間社会学研究科において、子ども教育専攻を開設し、申請カリキュラムを着実に実施するとともに、公認心理師受験資格取得のために大幅なカリキュラムの改変を行った。	7
㉓看護学研究科において、在学生・修了生のネットワークを組織化した。	8
㉔コンソーシアムで取組んだ、文部科学省大学間連携共同教育推進事業(平成24～28年度)の事後評価において、コンソーシアムでの取組の継続発展が期待できると評価され「S評価」を獲得した。 また、事業終了後もコンソーシアムとして単位互換に関する包括協定を再締結し事業を継続している。	9
㉕看護学部において、看護師、保健師、助産師の国家試験合格率100.0%、及び就職率100.0%を達成し、いずれも目標値を上回る高い実績をあげることができた。	11
㉖授業自己評価・対応プランを導入し、対応プランを公開するとともに、授業参観を促進するため、授業参観ウィークを導入した。	12
㉗教員の教育能力向上のため、ドイツから講師を招聘して、専門職養成教育について学ぶとともに、情報交換を行った。	14
㉘大学院の広報誌を作成し、関係方面に配付した。	19
㉙機関リポジトリの拡充、及びラーニングコモンズ利用促進のため、図書館セミナーを実施した。	22
㉚本学プロモーションビデオ(国際版)の制作を行い、ホームページに掲載した。	28
㉛福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」の助成を得て、英国短期語学演習を実施し、学生27名が参加した。	29
㉜日独国際シンポジウムの開催にあたり、ドイツ領事館の協力を得た。	30
㉝福岡県から委託を受けて、新たに「不登校児童生徒学校復帰支援事業」を実施した。	34
㉞新たに職員を九州大学主催のSD研修へ参加させることができ、より一層、職員の資質向上を図ることができた。	39
㉟平成29年7月に発生した九州北部豪雨時に、東峰村役場へ社会調査実習に行った学生と教員が孤立。危機管理マニュアルを基に適切な対応と敏速な情報収集等を行い、早期に救援に向くことができた。	42
㊱防犯カメラの増設等、安全対策の強化に努め、学生の犯罪被害防止を図った。	42
㊲学内施設を改修し、初めて男子寮を整備した。	
㊳ワークライフバランスの推進を図り、更なる時間外勤務の縮減が達成できた。	45

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己 評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資 金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)		差額 (b)-(a)
		費用の部	1,896	1,944	48	
		経常費用	1,896	1,890	▲ 6	
		業務費	1,690	1,680	▲ 10	
		教育研究経費	335	312	▲ 23	
		受託研究費等	-	6	6	
		人件費	1,355	1,361	6	
		一般管理経費	205	207	2	
		(減価償却費 再掲)	▲ 89	▲ 96	▲ 7	
		財務費用	-	2	2	
		臨時損失	-	53	53	
		収益の部	1,896	1,957	61	
		経常収益	1,865	1,878	13	
		運営費交付金収益	1,030	1,034	4	
		授業料収益	592	586	▲ 6	
		入学金収益	114	118	4	
		検定料収益	25	22	▲ 3	
		その他業務収益	-	1	1	
		受託研究等収益	-	6	6	
		受託事業等収益	-	0	0	
		補助金等収益	1	3	2	
		寄付金収益	0	2	2	
		資産見返物品受贈額戻入	43	46	3	
		資産見返運営費交付金等戻入	4	4	0	
		資産見返寄附金戻入	1	2	1	
		資産見返補助金戻入	13	12	▲ 1	
		資産見返補償金戻入	0	0	0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	36	36	0	
		臨時利益	-	79	79	
		純利益	-	13	13	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	0	
		目的積立金取崩額	31	-	▲ 31	
		総利益	-	13	13	

中期計画		年度計画				自己評価
		計画		実績		
2. 資金計画予算						
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
		資金支出	2,026	2,015	▲ 11	
		業務活動による支出	1,795	1,761	▲ 34	
		投資活動による支出	11	21	10	
		財務活動による支出	26	33	7	
		翌年度への繰越金	193	198	5	
		資金収入	2,026	2,015	▲ 11	
		業務活動による収入	1,800	1,789	▲ 11	
		運営費交付金による収入	1,030	1,029	▲ 1	
		授業料等による収入	732	710	▲ 22	
		受託研究等による収入	-	7	7	
		補助金等による収入	1	2	1	
		寄附金等による収入	0	1	1	
		その他収入	36	37	1	
	投資活動による収入	0	0	0		
	財務活動による収入	-	-	-		
	前中期目標期間繰越積立金取崩額	-	-	-		
	前年度からの繰越金	225	225	0		
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。			該当なし	-	
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし			該当なし	-	
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。			該当なし	-	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし			該当なし	-	